

# 令和4年度の環境監視の結果

福岡市

## <目次>

1	大気環境	-----	1
(1)	二酸化硫黄	-----	3
(2)	二酸化窒素	-----	4
(3)	一酸化炭素	-----	5
(4)	光化学オキシダント	-----	6
(5)	浮遊粒子状物質	-----	7
(6)	微小粒子状物質	-----	8
2	水環境	-----	9
(1)	河川	-----	9
(2)	博多湾	-----	18
(3)	海水浴場	-----	23
(4)	地下水	-----	24
3	音環境	-----	25
(1)	自動車騒音・道路交通振動	-----	25
(2)	航空機騒音	-----	28
(3)	鉄道騒音・振動	-----	29
4	化学物質等	-----	31
(1)	ダイオキシン類	-----	31
(2)	有害大気汚染物質	-----	33
(3)	アスベスト	-----	35
(4)	酸性雨	-----	36
(5)	フロン	-----	36

# 1 大気環境

※大気環境基準：環境基本法第16条に基づき、大気汚染に係る環境上の条件として定められた、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準のことで、二酸化硫黄・二酸化窒素・一酸化炭素・光化学オキシダント・浮遊粒子状物質・微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）・ベンゼン・トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン等が定められています。

※一般環境大気測定局：大気汚染防止法に基づき環境大気の汚染状況を監視するための測定局で、工場の煙突の煙や自動車の排気ガスなどの直接的な影響の無い場所に設置します。福岡市では、主に小学校や中学校の校庭などに設置しています。ここで得られた測定結果は、環境基準の適否の判断、緊急時対策の実施、対策の立案やその効果の判定など基礎資料として使用されます。

※自動車排出ガス測定局：自動車から出る排気ガスによる大気汚染の状況を監視するための測定局で、大きな交差点や幹線道路の沿道付近に設置します。ここで得られた測定結果は、一般環境大気測定局と同様に環境基準の適否の判断や自動車による汚染寄与度の推定などに使用されます。

## ●大気常時監視測定局所在地及び測定項目

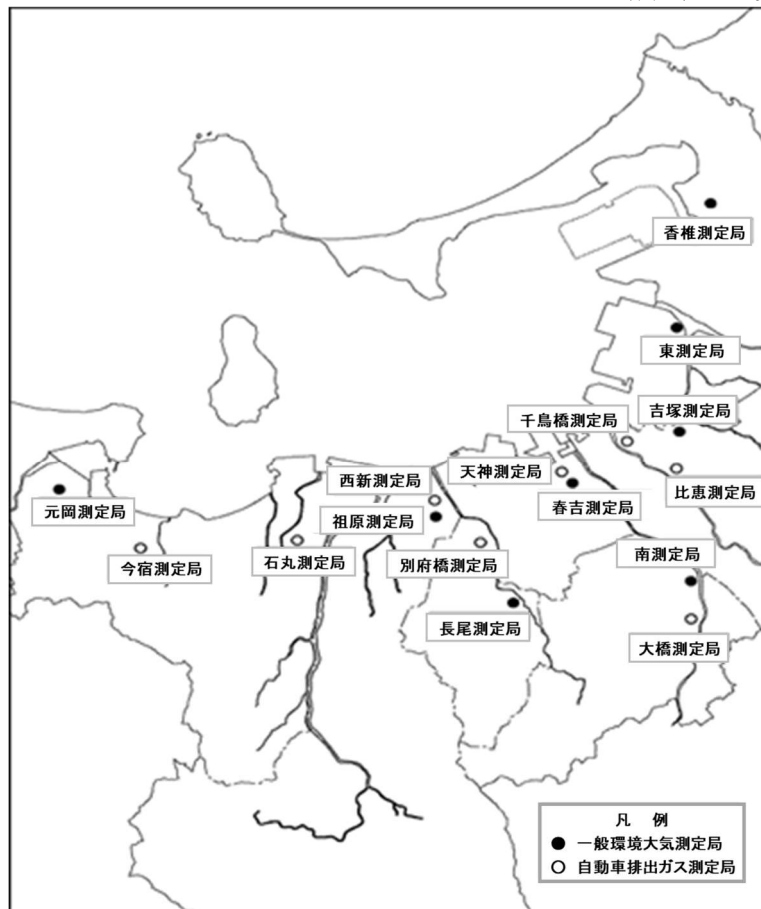
(令和5年3月31日現在)

測定局	所在地	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	炭化水素	風向風速	日射量
一般環境大気測定局	香椎	東 区香住ヶ丘3丁目10		○		○	○	○	○	
	東	東 区筥松4丁目21		○		○			○	
	吉塚	博多区吉塚6丁目8	○	○		○	○		○	
	春吉	中央区春吉1丁目17-38	○	○		○	○		○	
	南	南 区塩原1丁目27		○		○			○	
	長尾	城南区长尾5丁目1-1		○		○	○		○	
	祖原	早良区祖原15-7	○	○		○	○		○	○
自動車排出ガス測定局	元岡	西 区田尻東1丁目17-1		○		○	○		○	
	千鳥橋	博多区千代5丁目1		○		○	○		○	
	比恵	博多区東比恵1丁目3		○			○			
	天神	中央区天神2丁目12	○	○	○		○		○	
	大橋	南 区大橋3丁目18		○			○			
	別府橋	城南区別府1丁目22		○			○			
	西新	早良区西新3丁目1-1		○			○		○	
石丸	西 区石丸2丁目25		○		○	○		○		
今宿	西 区今宿青木字草場137		○			○				

※市役所局は令和4年3月廃止。令和4年4月に春吉局設置。

## ●大気常時監視測定局位置図

(令和5年3月31日現在)



※環境基準の評価：

○二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質…以下の2つの条件を満たしている場合は、環境基準「達成」と判定します。

①1年間の日平均のうち、高い方から2%にあたる部分を除いた後の一番高い日平均値（日平均値の2%除外値）が環境基準値を超えていないこと。

②日平均値が環境基準値を2日以上連続して超えていないこと。

○二酸化窒素…1年間の日平均値のうち低い方から98%の範囲にある日平均値のうち一番高い値（日平均値の98%値）が環境基準値を超えていない場合は、環境基準「達成」と判定します。

○光化学オキシダント…1年間を通して昼間の1時間値が0.06ppmを超えていない場合のみ、環境基準「達成」と判定します。なお、昼間とは、5時から20時までをいいます。

○微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）…以下の2つの条件を満たしている場合は、環境基準「達成」と判定します。

①1年間の平均値が環境基準値を超えていないこと。

②1年間の日平均のうち低い方から98%の範囲にある日平均値のうち一番高い値（日平均値の98%値）が環境基準値を超えていないこと。

●環境基準の達成状況

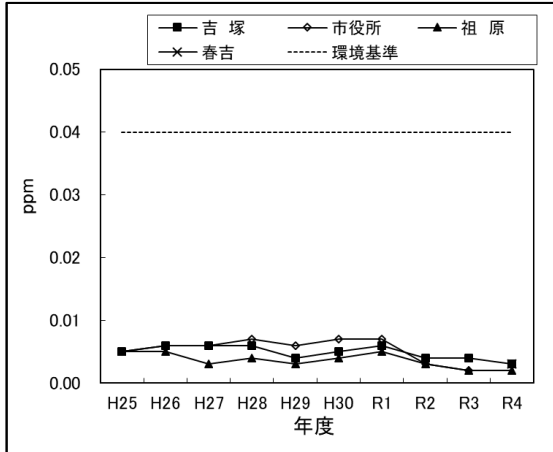
(令和4年度)

項目	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )		二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )		一酸化炭素 (CO)		光化学オキシダント (Ox)		浮遊粒子状物質 (SPM)		微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )			
	年間日平均値の2%除外値が0.04ppm以下かつ日平均値0.04ppmを2日以上連続して超えないこと	達成状況	年間日平均値の98%値が0.06ppm以下	達成状況	年間日平均値の2%除外値が10ppm以下かつ日平均値10ppmを2日以上連続して超えないこと	達成状況	昼間の時間(5時~20時)の1時間値が0.06ppm以下	達成状況	年間日平均値の2%除外値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下かつ日平均値0.10mg/m <sup>3</sup> を2日以上連続して超えないこと	達成状況	年平均値が15μg/m <sup>3</sup> 以下かつ年間日平均値の98%値が35μg/m <sup>3</sup> 以下であること	達成状況		
測定局	年間日平均値の2%除外値 (ppm)	達成状況	年間日平均値の98%値 (ppm)	達成状況	年間日平均値の2%除外値 (ppm)	達成状況	超過した時間数(括弧内は日数)	達成状況	年間日平均値の2%除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	基準値を連続して超過した回数	達成状況	年平均値 (μg/m <sup>3</sup> )	年間日平均値の98%値 (μg/m <sup>3</sup> )	達成状況
一般環境大気測定局	香椎		0.018	○			504(85)	×	0.040	0	○	10.5	25.1	○
	東		0.026	○			318(65)	×	0.038	0	○			
	吉塚	0.003	○	0.025	○		302(62)	×	0.034	0	○	11.4	24.9	○
	春吉	0.003	○	0.019	○		466(75)	×	0.036	0	○	11.4	26.3	○
	南			0.015	○		348(69)	×	0.034	0	○			
	長尾			0.015	○		473(80)	×	0.036	0	○	10.6	24.6	○
	祖原	0.002	○	0.016	○		313(52)	×	0.030	0	○			
自動車排出ガス測定局	元岡		0.012	○			490(76)	×	0.035	0	○	12.9	27.8	○
	千鳥橋		0.029	○					0.039	0	○	10.9	26.0	○
	比恵		0.029	○					0.038	0	○			
	天神	0.002	○	0.039	○	1.2	○		0.034	0	○			
	大橋		0.015	○					0.039	0	○	11.1	24.7	○
	別府橋		0.021	○					0.039	0	○			
	西新		0.020	○					0.039	0	○	11.4	26.1	○
石丸		0.015	○			278(56)	×	0.037	0	○	10.6	24.6	○	
今宿		0.014	○					0.039	0	○				

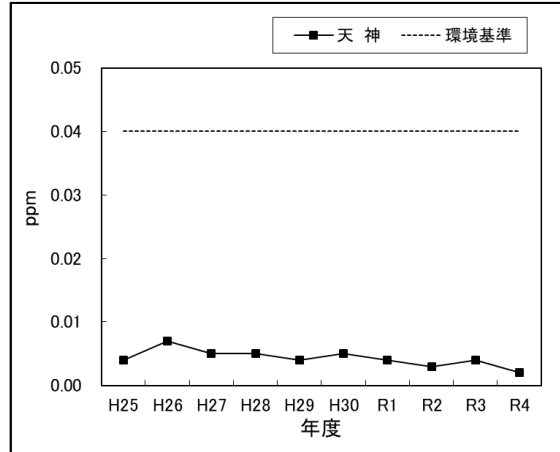
注) 日平均値 : 1時間値の1日平均値  
 年間日平均値 : 1年間にわたる1時間値の1日平均値  
 年平均値 : 1年間にわたる1日平均値の総和を測定日数で割った値

## (1) 二酸化硫黄

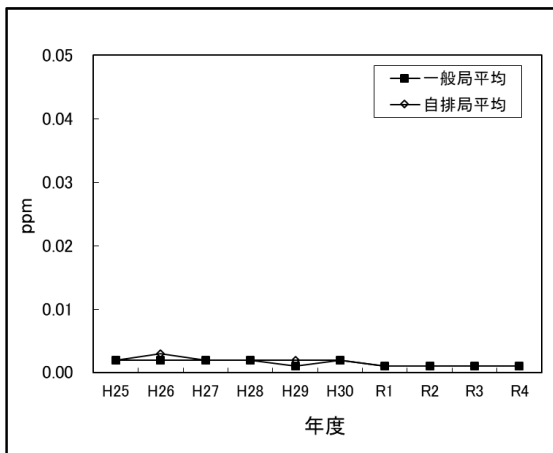
●二酸化硫黄の日平均値の2%除外値の推移  
(一般局)



●二酸化硫黄の日平均値の2%除外値の推移  
(自排局)

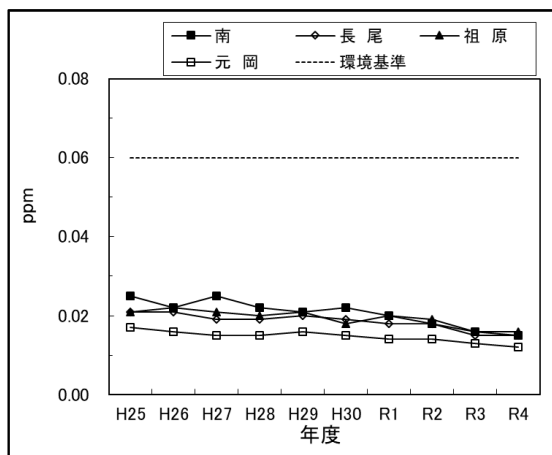
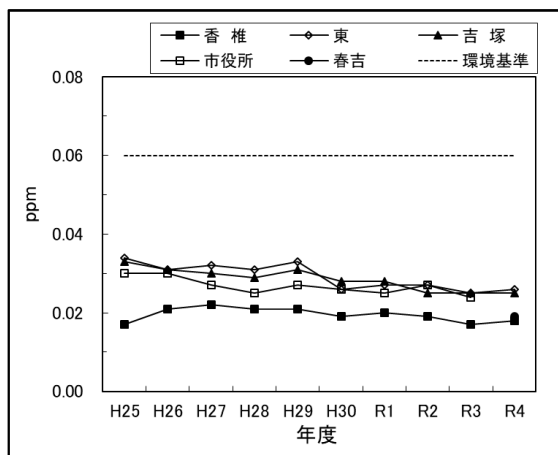


●二酸化硫黄の年平均値の推移  
(一般局、自排局)

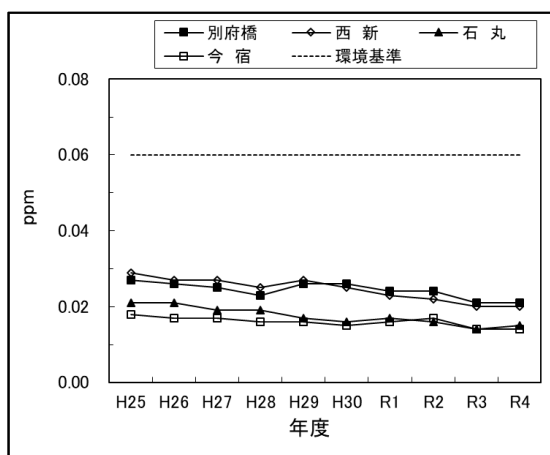
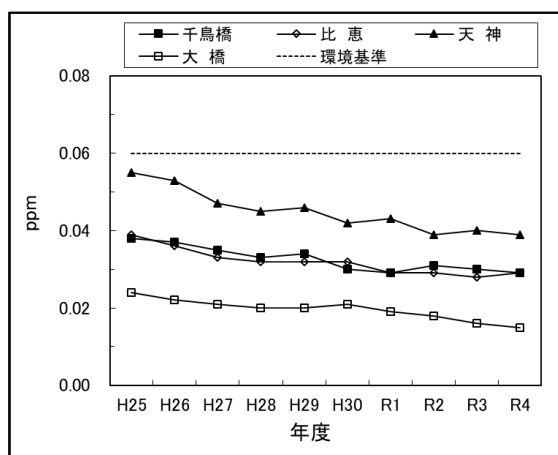


## (2) 二酸化窒素

### ●二酸化窒素の日平均値の98%値の推移（一般局）

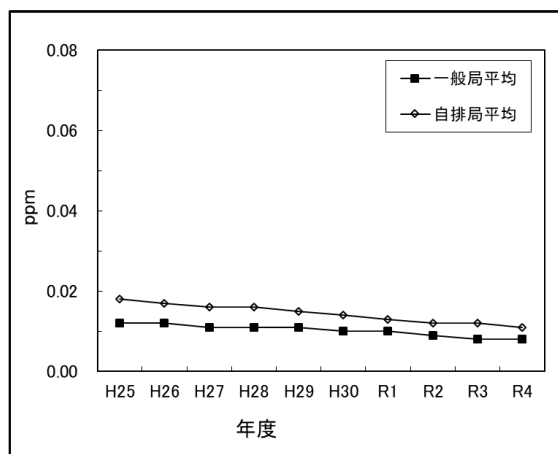


### ●二酸化窒素の日平均値の98%値の推移（自排局）



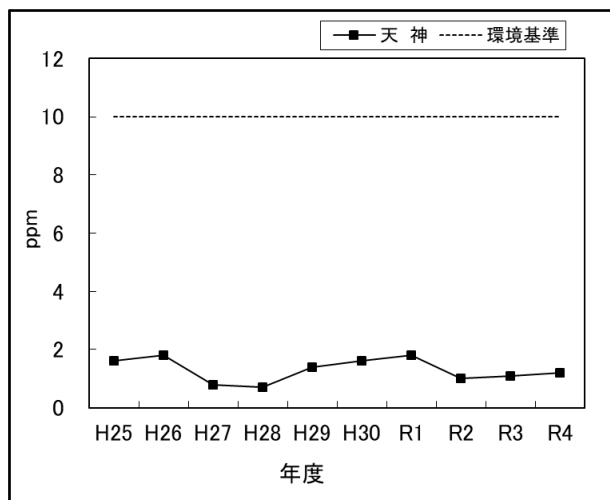
※平成25年度西新局については参考値

### ●二酸化窒素の年平均値の推移（一般局、自排局）

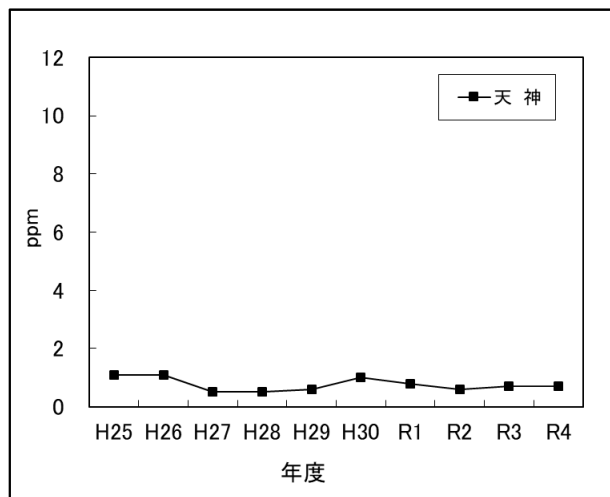


### (3) 一酸化炭素

#### ●一酸化炭素の日平均値の2%除外値の推移（天神局）

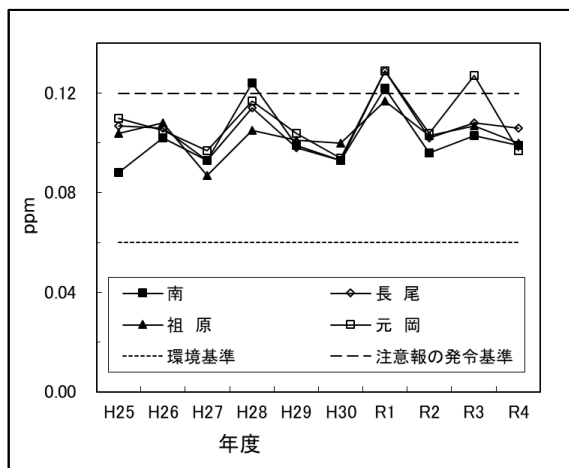
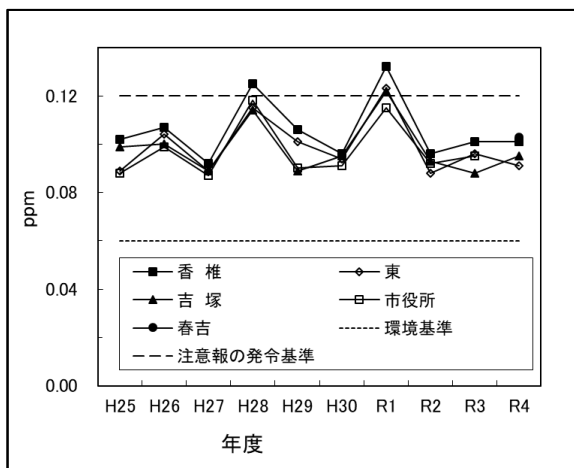


#### ●一酸化炭素の年平均値の推移（天神局）

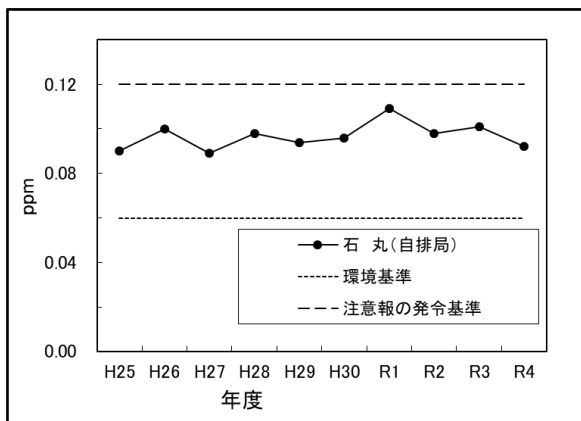


#### (4) 光化学オキシダント

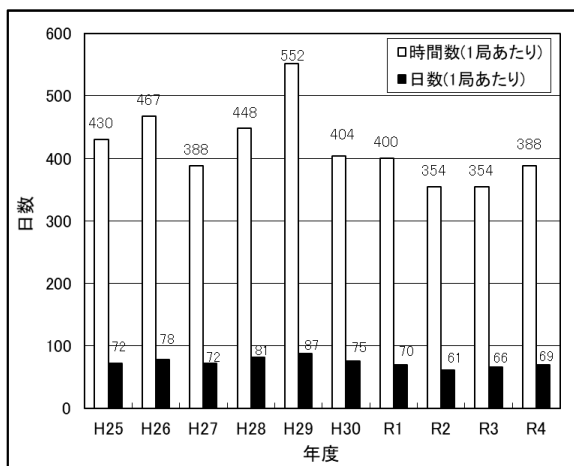
##### ●光化学オキシダント昼間の1時間値の最高値の推移（一般局）



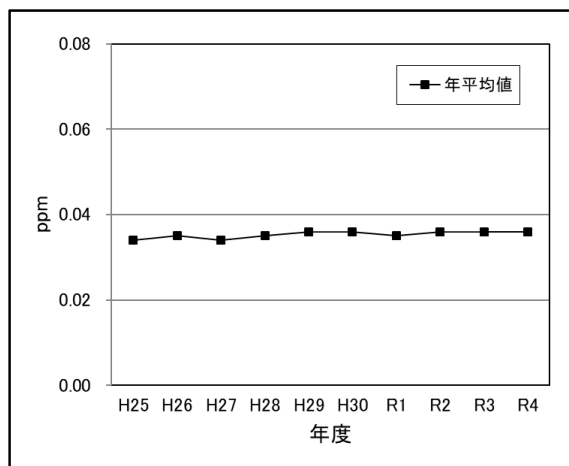
##### ●光化学オキシダント昼間の1時間値の最高値の推移（自排局）



##### ●1年間で昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数・日数（1局あたり）



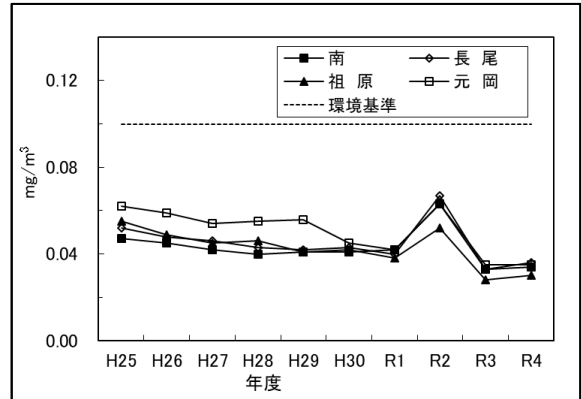
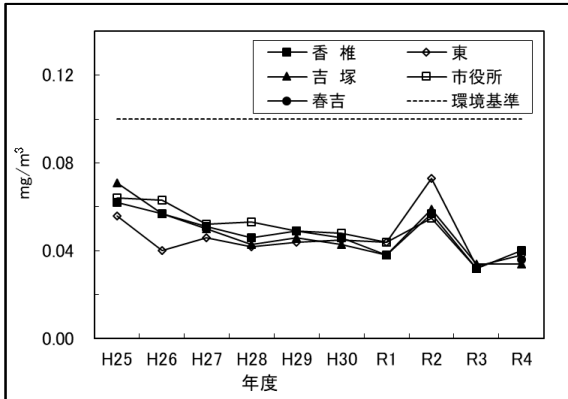
##### ●昼間の1時間値の年平均値の推移



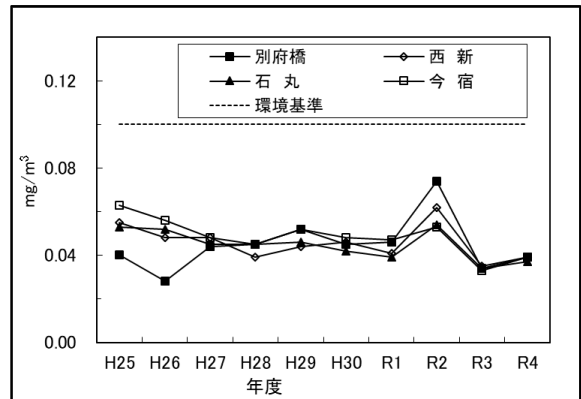
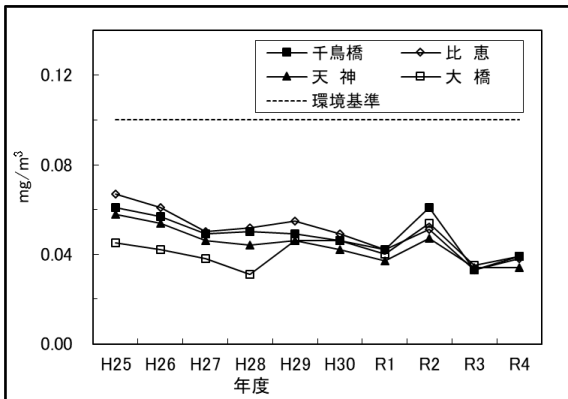


## (5) 浮遊粒子状物質

### ●浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値の推移（一般局）

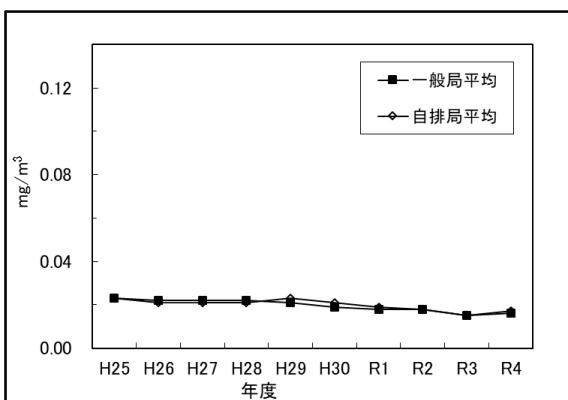


### ●浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値の推移（自排局）

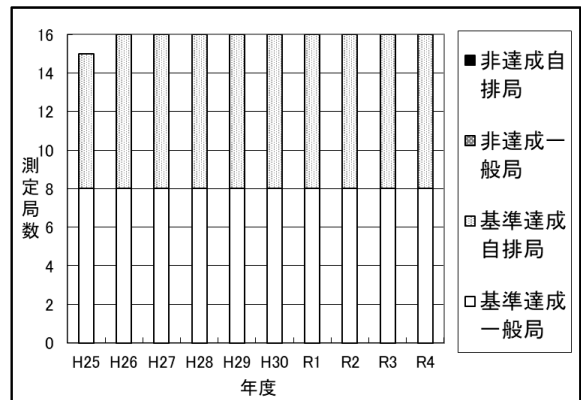


※平成 25 年度西新局については参考値

### ●浮遊粒子状物質の年平均値の推移（一般局、自排局）



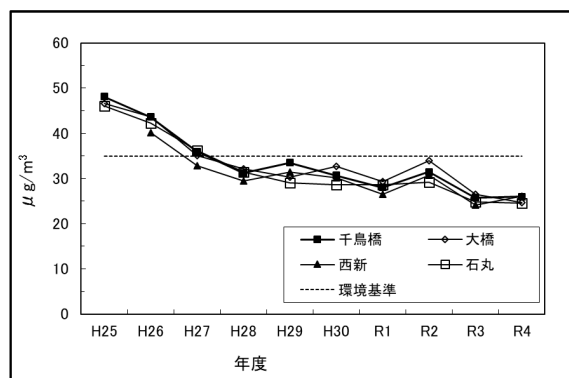
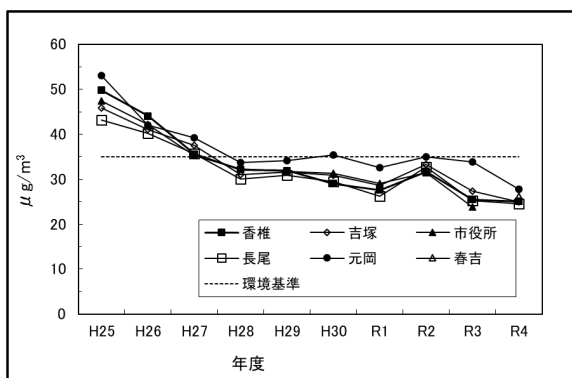
### ●浮遊粒子状物質の環境基準達成状況の推移（一般局、自排局）



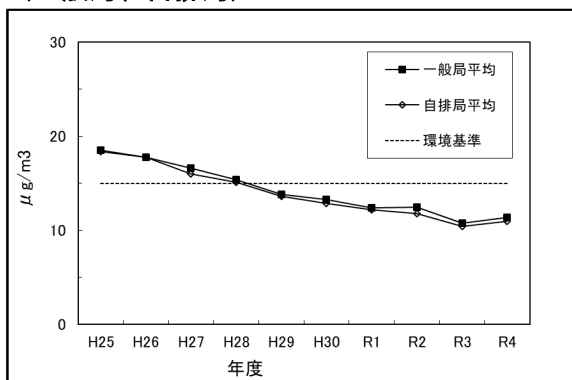
※平成 25 年度西新局については、年間測定時間が 6,000 時間未満のため、評価対象外

## (6) 微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>)

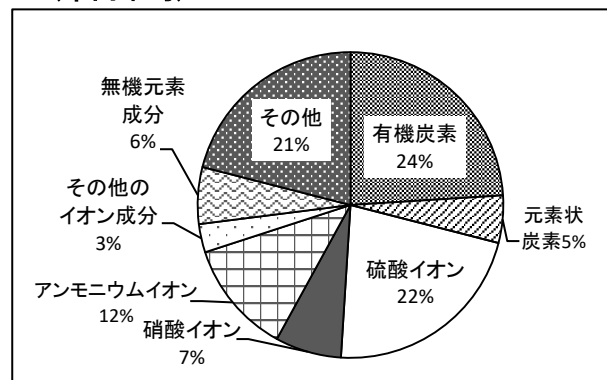
### ●微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>) の日平均値の 98%値の推移 (一般局と自排局)



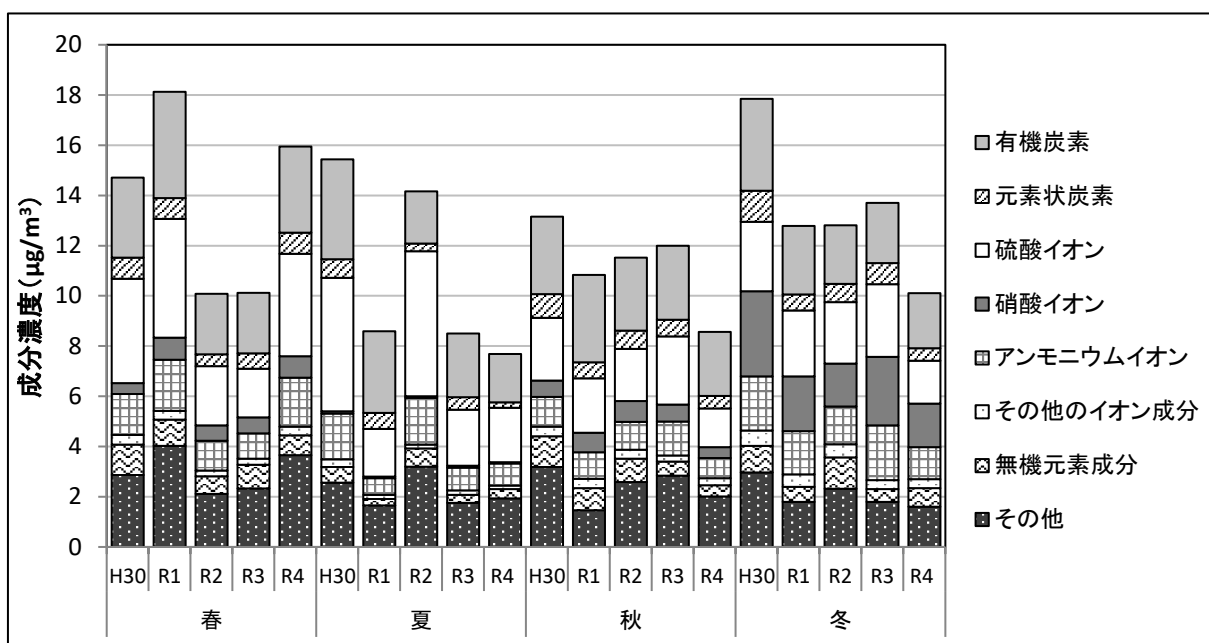
### ●微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>) の年平均値の推移 (一般局、自排局)



### ●微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>) の成分割合 (市内平均)



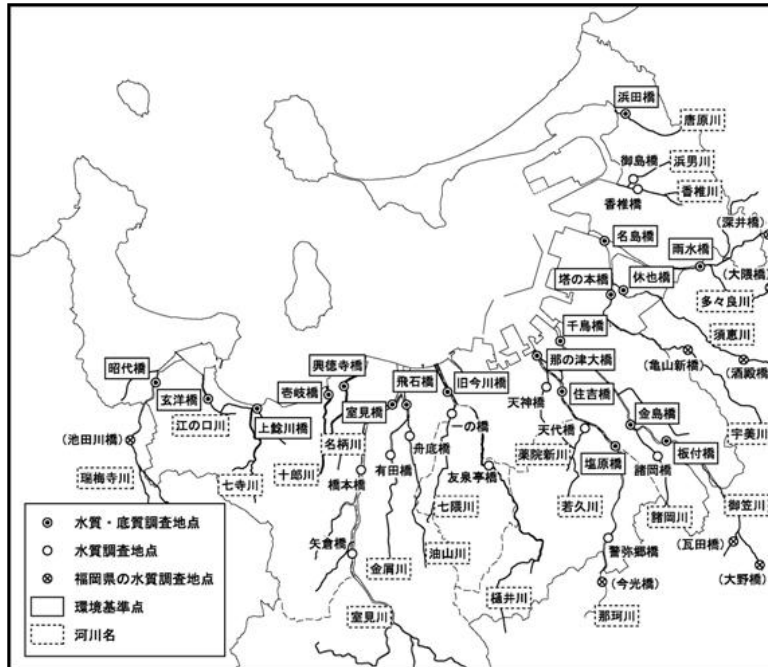
### ●微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>) の成分濃度 (市内平均)



## 2 水環境

### (1) 河川

#### ●水質及び底質調査地点図



#### ●市内主要河川の諸元

資料：福岡市地域防災計画（資料編）令和4年6月

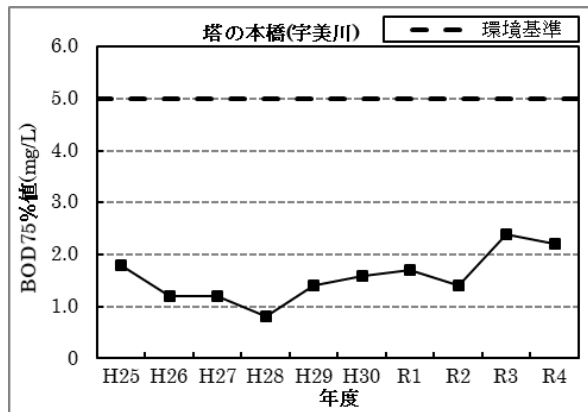
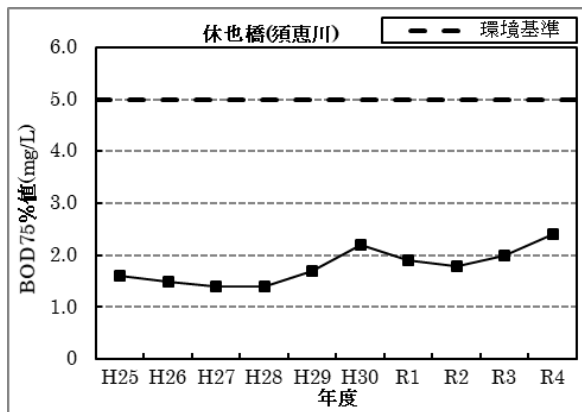
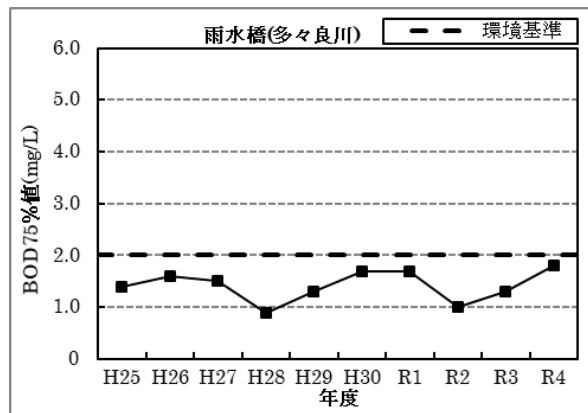
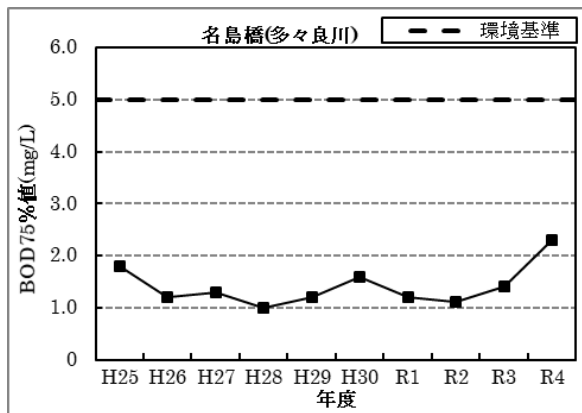
河川名	起点	終点	延長(m)	流域面積(km <sup>2</sup> )
多々良川	糟屋郡篠栗町大字篠栗字黒木原456番1地先	博多湾	17,352	167.9
宇美川	糟屋郡宇美町大字宇美字内野1229番地先の内野橋下流端	多々良川への合流点	16,777	71.6
須恵川	糟屋郡宇美町大字宇美ツムリ谷18番地先の砂防堰堤	宇美川への合流点	14,932	23.5
御笠川	太宰府市大字北谷字ソイラ707番地先	博多湾	24,150	94.0
那珂川	福岡市早良区板屋字伊津浦207番地先の砂防堰堤	博多湾	35,130	124.0
樋井川	福岡市南区大字柏原字山田715番の1地先の砂防堰堤	博多湾	12,875	29.2
室見川	福岡市早良区大字曲淵字山除77番地先の曲淵水源地堰	博多湾	16,330	99.1
金層川	福岡市早良区重留五丁目803番地先の重留橋	室見川への合流点	9,555	12.8
瑞梅寺川	前原市大字瑞梅寺ブジ366番地先の奇徳橋	今津湾	12,841	52.6

●河川BOD75%値の環境基準達成状況（令和4年度）

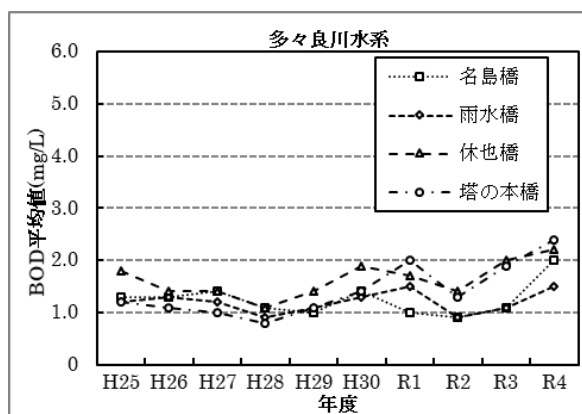
水系	河川名	調査地点	類型	環境基準値 (mg/l)	BOD 75%値 (mg/l)	達成 状況
唐の原川	唐の原川	浜田橋	C	5以下	2.0	○
多々良川	多々良川	名島橋	C	5以下	2.3	○
		雨水橋	A	2以下	1.8	○
	須恵川	休也橋	C	5以下	2.4	○
	宇美川	塔の本橋	C	5以下	2.2	○
御笠川	御笠川	千鳥橋	D	8以下	1.9	○
		金島橋	D	8以下	1.8	○
		板付橋	B	3以下	1.8	○
那珂川	那珂川	那の津大橋	C	5以下	1.3	○
		住吉橋	B	3以下	1.5	○
		塩原橋	A	2以下	1.0	○
樋井川	樋井川	旧今川橋	B	3以下	1.3	○
室見川	金屑川	飛石橋	C	5以下	1.0	○
	室見川	室見橋	A	2以下	0.9	○
名柄川	名柄川	興徳寺橋	C	5以下	1.0	○
十郎川	十郎川	壱岐橋	C	5以下	1.1	○
七寺川	七寺川	上鯰川橋	C	5以下	0.7	○
江の口川	江の口川	玄洋橋	C	5以下	1.6	○
瑞梅寺川	瑞梅寺川	昭代橋	A	2以下	1.6	○

## ア 多々良川水系

### ●BOD75%値の推移（多々良川水系）

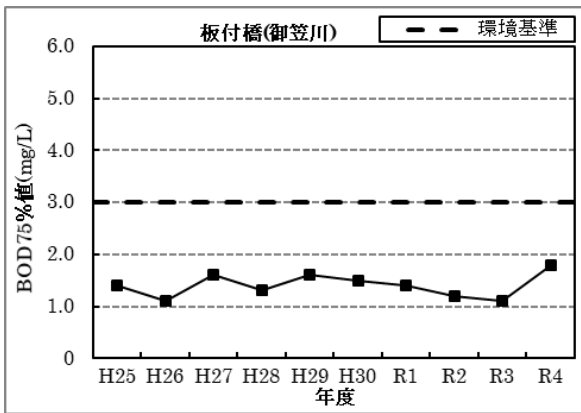
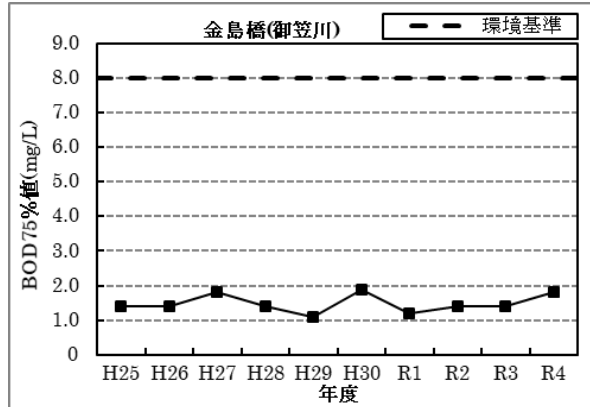
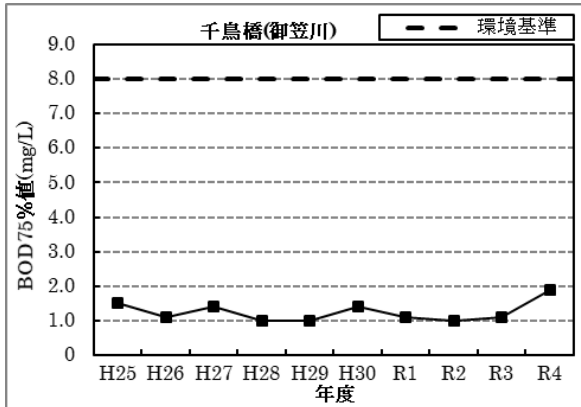


### ●BOD年平均値の推移（多々良川水系）

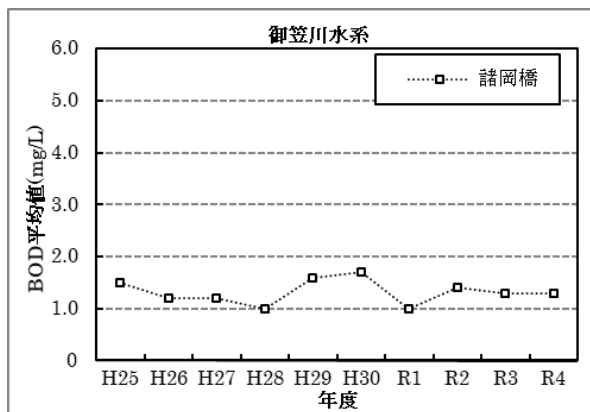
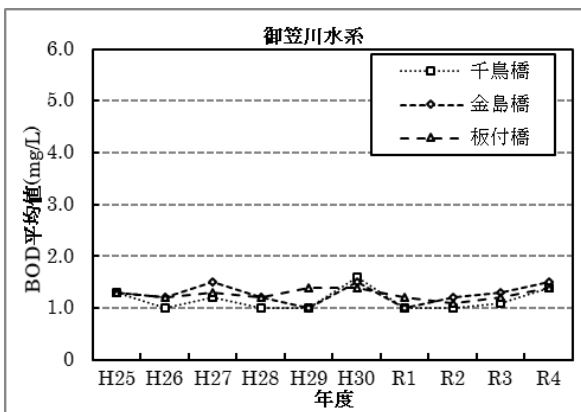


# イ 御笠川水系

## ●BOD75%値の推移（御笠川水系）

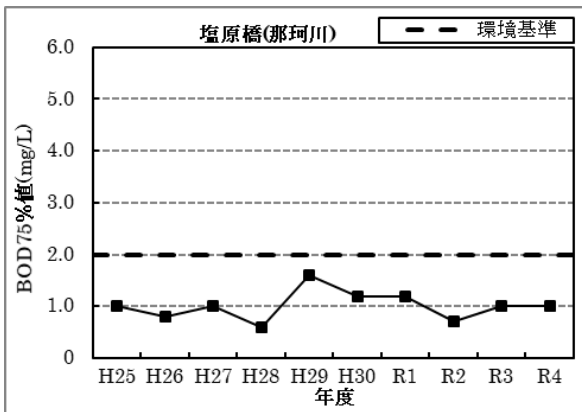
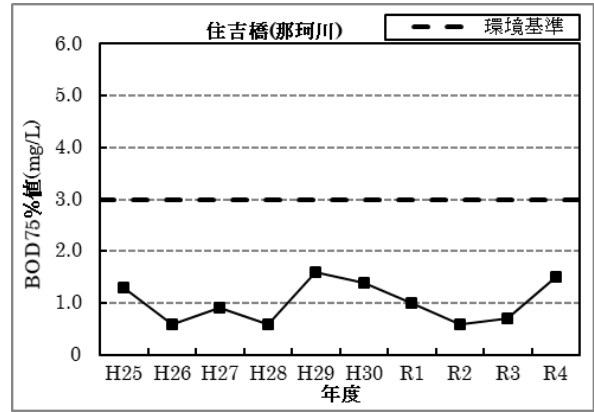
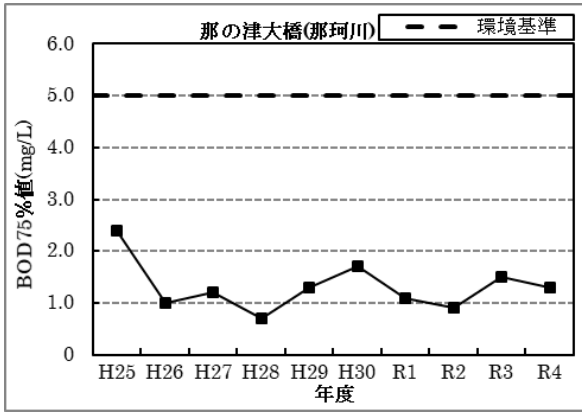


## ●BOD年平均値の推移（御笠川水系）

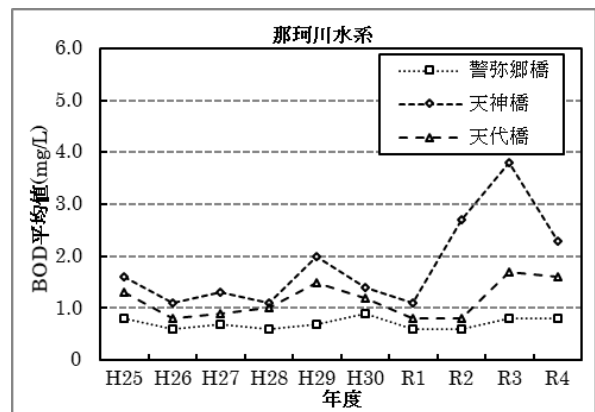
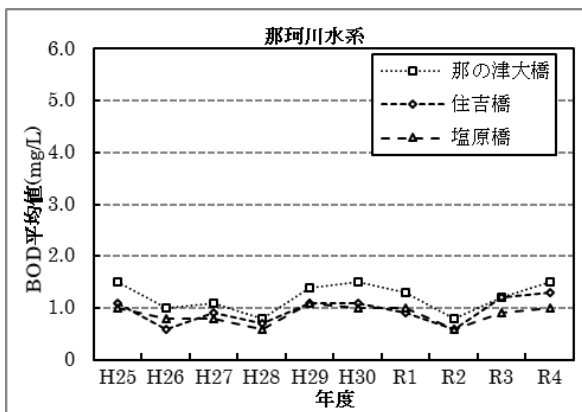


ウ 那珂川水系

●BOD75%値の推移（那珂川水系）

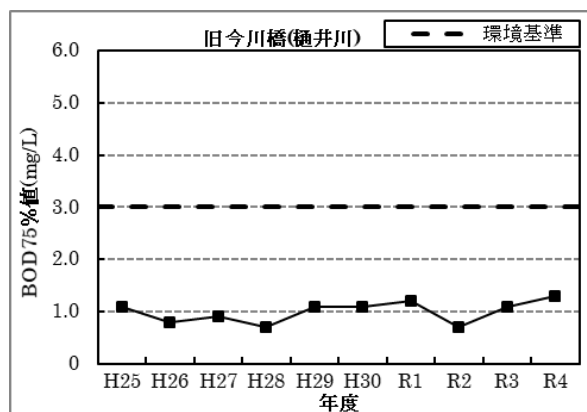


●BOD年平均値の推移（那珂川水系）

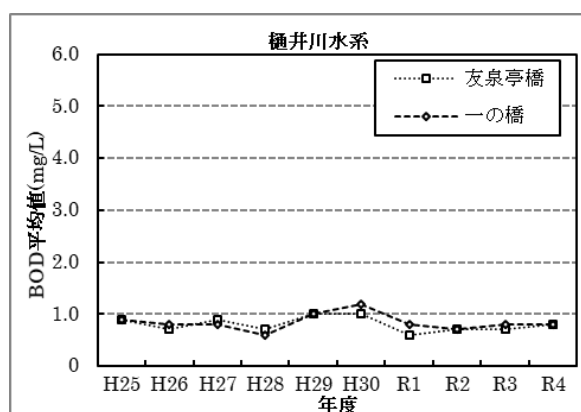
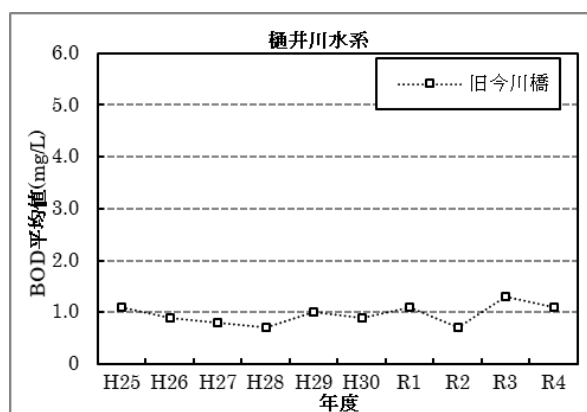


## エ 樋井川水系

### ●BOD75%値の推移（樋井川水系）



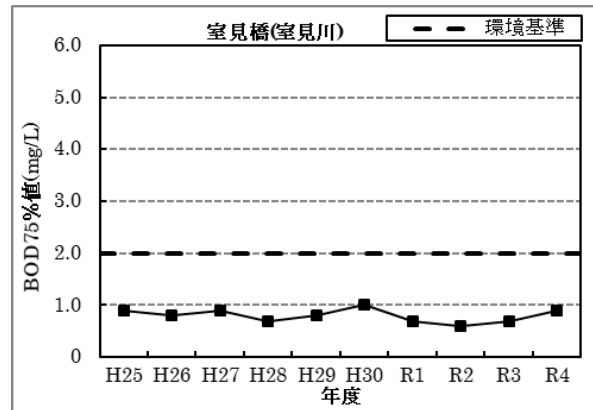
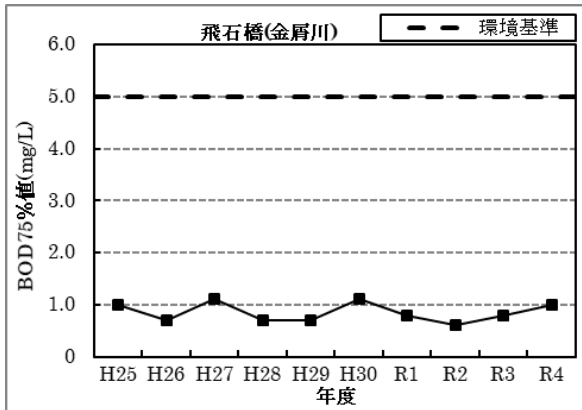
### ●BOD年平均値の推移（樋井川水系）



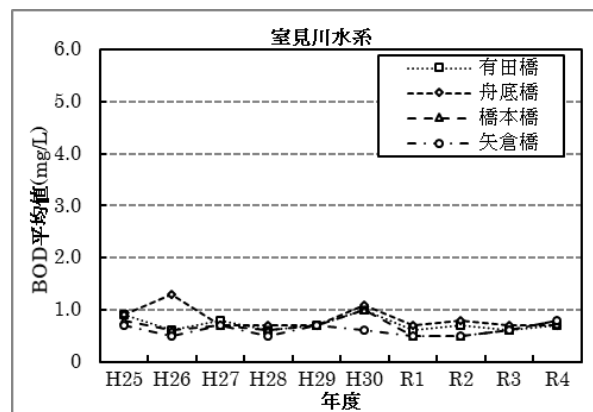
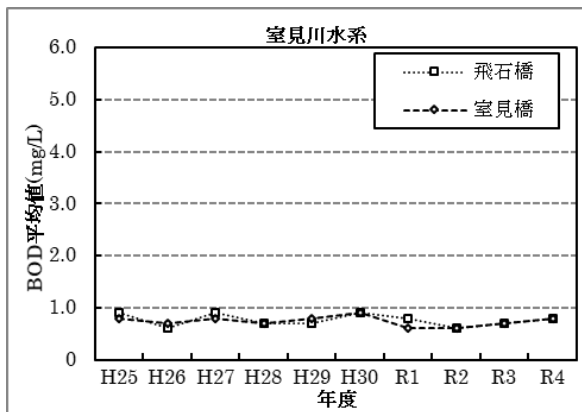


才 室見川水系

●BOD75%値の推移（室見川水系）

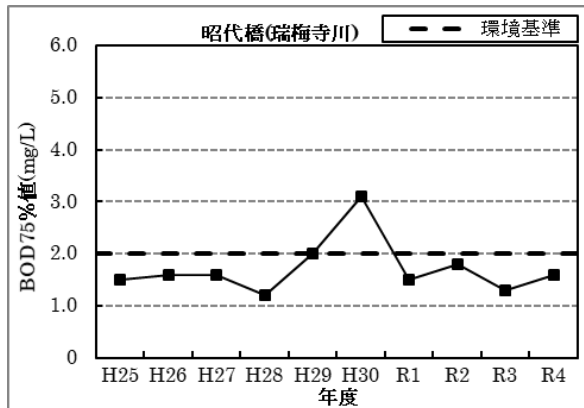


●BOD年平均値の推移（室見川水系）

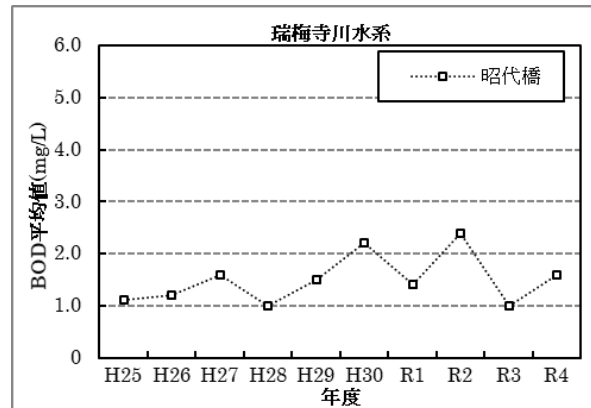


## カ 瑞梅寺川水系

●BOD75%値の推移（瑞梅寺川水系）

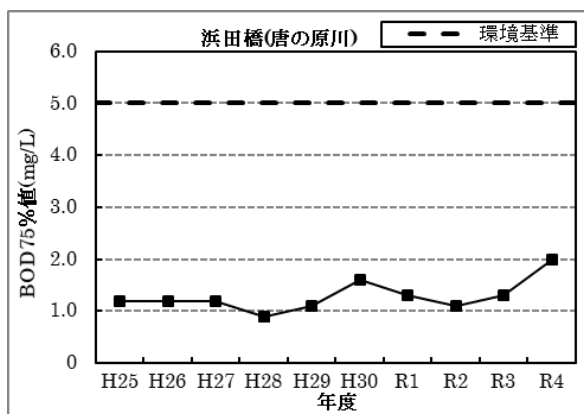


●BOD年平均値の推移（瑞梅寺川水系）

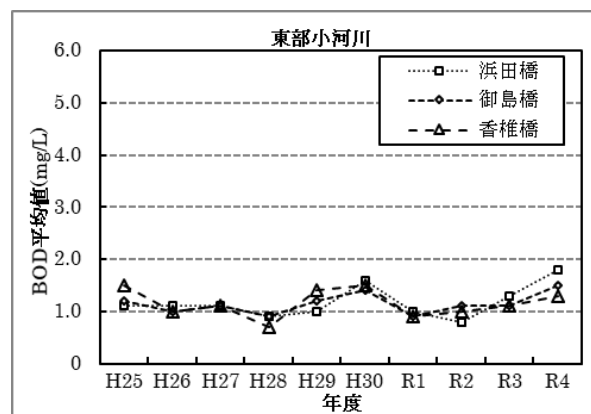


## キ 東部小河川

●BOD75%値の推移（東部小河川）

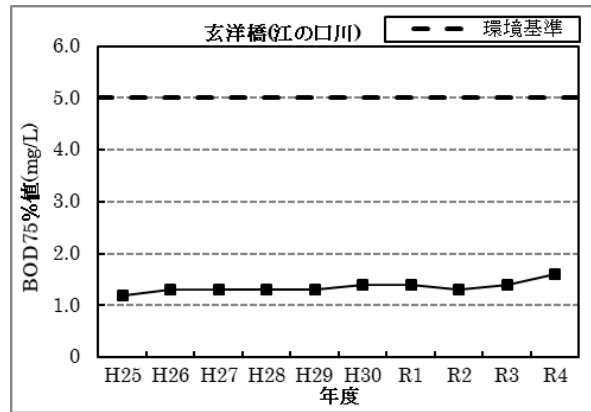
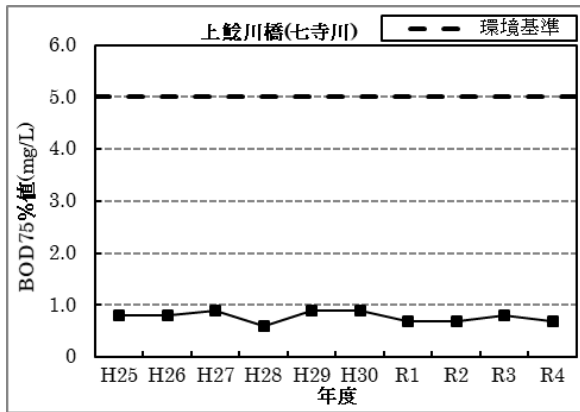
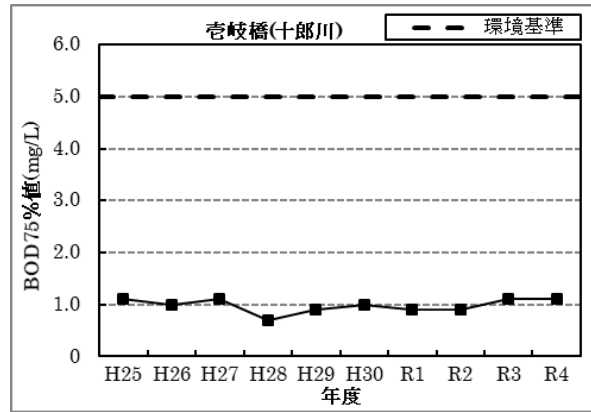
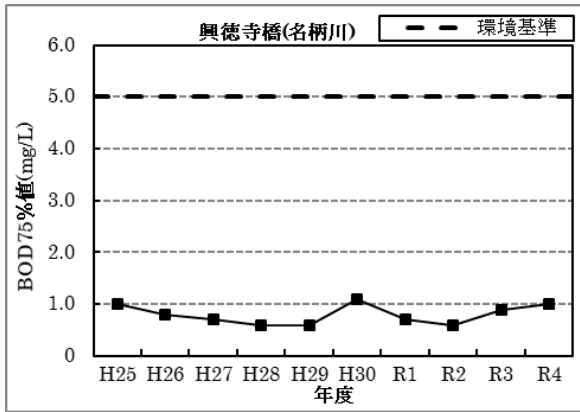


●BOD年平均値の推移（東部小河川）

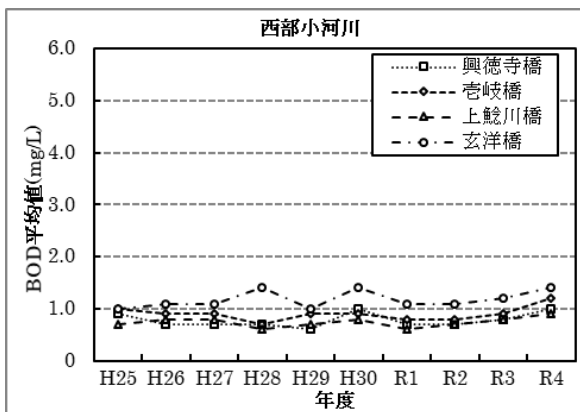


## ク 西部小河川

### ●BOD75%値の推移（西部小河川）



### ●BOD年平均値の推移（西部小河川）



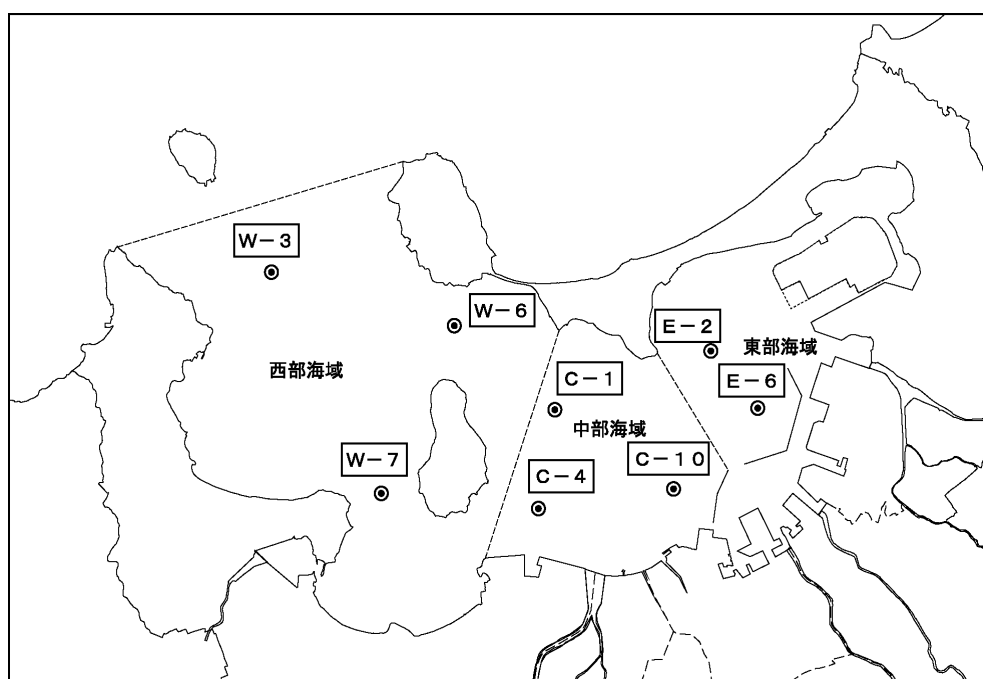
## (2) 博多湾

### ●博多湾の諸元（平成24年度）

資料：博多湾環境保全計画（第二次）

海表面積	海水容量	平均水深	干満の差	流域面積
133.3 km <sup>2</sup>	1.4 km <sup>3</sup>	10.8 m	2.20 m	690 km <sup>2</sup>
平均水面	平均水面	平均水面	大潮時干満差	市域外も含む

### ●水質及び底質調査地点図



- ・東部海域  
福岡市東区西戸崎二丁目2905番地先南端と博多湾西防波堤(以下「西防波堤」という。)北端とを結ぶ直線、西防波堤、西防波堤南端と同市中央区荒津二丁目3番50号地先北端とを結ぶ直線および海岸線に囲まれた海域
- ・中部海域  
福岡市東区大岳四丁目2898番地の20大岳岬南端と同市西区小戸二丁目1992番地の妙見岬北端とを結ぶ直線および海岸線に囲まれた海域であって東部海域に係る部分を除いたもの
- ・西部海域  
福岡市東区勝馬2115番地先北端と同市西区大字西浦2467番地西浦崎北端とを結ぶ直線および海岸線に囲まれた海域であって東部海域および中部海域に係る部分を除いたもの

●博多湾COD75%値の環境基準値達成状況及び経年変化

(単位: mg/L)

海域名	類型、達成期間	環境基準値	地点名	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度環境基準達成状況
東部海域	B、ロ	3以下	E-2	3.2	2.8	3.1	2.5	2.7	3.1	3.0	3.0	3.0	3.6	×
			E-6	3.0	2.9	3.2	3.0	2.7	3.2	3.2	3.2	3.4	3.6	×
中部海域	A、ロ	2以下	C-1	2.2	2.3	2.6	2.3	2.3	2.6	2.5	2.4	2.3	2.6	×
			C-4	2.4	2.8	2.7	2.7	2.3	2.4	2.7	2.5	2.7	3.0	×
			C-10	2.5	2.6	2.5	2.7	2.5	2.9	2.7	2.6	3.0	2.8	×
西部海域	A、イ	2以下	W-3	1.2	1.5	1.3	1.4	1.2	1.2	1.3	1.4	1.4	1.5	○
			W-6	1.9	1.9	1.9	2.0	2.1	1.9	2.2	2.0	2.1	1.9	○
			W-7	1.9	2.0	1.8	2.0	1.7	2.0	2.4	1.9	2.0	2.1	×

\*各月の全層平均値を値が小さい順に並べ替えた12個のデータの9番目のデータ  
※達成期間の分類は、次のとおり。

- (1)「イ」は、直ちに達成
- (2)「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成
- (3)「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成

●博多湾COD平均値の経年変化

(単位: mg/L)

海域名	地点名	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
東部海域	E-2	2.6	2.6	2.3	2.4	2.5	2.6	2.5	2.5	2.7	2.9
	E-6	2.5	2.7	2.4	2.6	2.5	2.7	2.5	2.5	3.0	2.9
中部海域	C-1	2.0	2.2	1.9	2.2	2.1	2.3	2.3	2.0	2.1	2.3
	C-4	2.1	2.4	2.0	2.2	2.2	2.3	2.4	2.2	2.4	2.6
	C-10	2.3	2.3	2.0	2.3	2.2	2.4	2.4	2.2	2.5	2.6
西部海域	W-3	1.2	1.3	1.0	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3
	W-6	1.8	1.8	1.6	1.8	1.7	1.8	2.0	1.8	1.9	1.9
	W-7	1.8	1.9	1.6	1.9	1.7	1.7	2.1	1.8	1.8	1.9

\*各月の全層平均値を平均したもの

●博多湾全窒素の環境基準値達成状況及び経年変化

(単位: mg/L)

海域名	類型、達成期間	環境基準値	地点名	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度環境基準達成状況	
東部海域	Ⅲ、ニ	0.6以下	E-2	0.50	0.49	0.50	0.47	0.57	0.53	0.53	0.55	0.56	0.57		
			E-6	0.51	0.41	0.48	0.48	0.60	0.60	0.59	0.56	0.63	0.55		
			海域平均	0.51	0.45	0.49	0.48	0.59	0.57	0.56	0.56	0.60	0.56		○
中部海域	Ⅲ、イ	0.6以下	C-1	0.36	0.33	0.31	0.32	0.38	0.35	0.36	0.32	0.36	0.38		
			C-4	0.47	0.33	0.39	0.37	0.45	0.38	0.42	0.38	0.42	0.40		
			C-10	0.41	0.38	0.41	0.44	0.43	0.43	0.42	0.49	0.44	0.44		
			海域平均	0.41	0.35	0.37	0.38	0.42	0.39	0.40	0.40	0.41	0.41		○
西部海域	Ⅱ、イ	0.3以下	W-3	0.15	0.14	0.16	0.18	0.14	0.15	0.15	0.14	0.15	0.14		
			W-6	0.27	0.25	0.27	0.27	0.29	0.26	0.29	0.27	0.29	0.26		
			W-7	0.28	0.28	0.28	0.29	0.26	0.28	0.32	0.27	0.30	0.31		
			海域平均	0.23	0.22	0.24	0.25	0.23	0.23	0.25	0.23	0.25	0.24		○

●博多湾全りんごの環境基準値達成状況及び経年変化

(単位: mg/L)

海域名	類型、達成期間	環境基準値	地点名	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度環境基準達成状況
東部海域	Ⅲ、ニ	0.05以下	E-2	0.037	0.033	0.034	0.040	0.039	0.032	0.037	0.034	0.029	0.029	
			E-6	0.033	0.028	0.032	0.039	0.037	0.038	0.039	0.035	0.038	0.031	
			海域平均	0.035	0.031	0.033	0.040	0.038	0.035	0.038	0.035	0.034	0.030	
中部海域	Ⅲ、イ	0.05以下	C-1	0.023	0.023	0.023	0.027	0.027	0.023	0.024	0.019	0.020	0.020	
			C-4	0.028	0.024	0.027	0.029	0.028	0.026	0.029	0.025	0.022	0.022	
			C-10	0.027	0.026	0.029	0.037	0.032	0.027	0.029	0.028	0.026	0.025	
			海域平均	0.026	0.024	0.026	0.031	0.029	0.025	0.027	0.024	0.023	0.022	
西部海域	Ⅱ、イ	0.03以下	W-3	0.013	0.015	0.015	0.016	0.013	0.012	0.011	0.012	0.012	0.011	
			W-6	0.018	0.018	0.020	0.023	0.021	0.019	0.022	0.019	0.017	0.016	
			W-7	0.021	0.022	0.023	0.028	0.021	0.020	0.024	0.022	0.019	0.019	
			海域平均	0.017	0.018	0.019	0.022	0.018	0.017	0.019	0.018	0.016	0.015	

※全窒素及び全りんごに係る環境基準への適合性の評価については、各海域内の各環境基準点における表層の年間平均値を、当該海域内のすべての基準点について平均した値により行う。

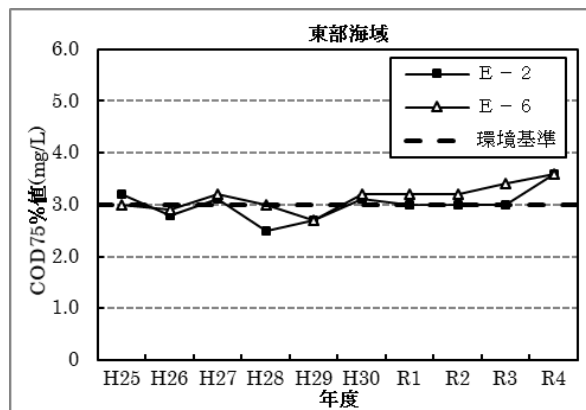
※平成8年6月14日付け福岡県告示第1140号にて、博多湾における窒素及びりんごに係る環境基準の類型が指定された。

※全窒素及び全りんごに係る環境基準の達成期間の分類は、次のとおり。

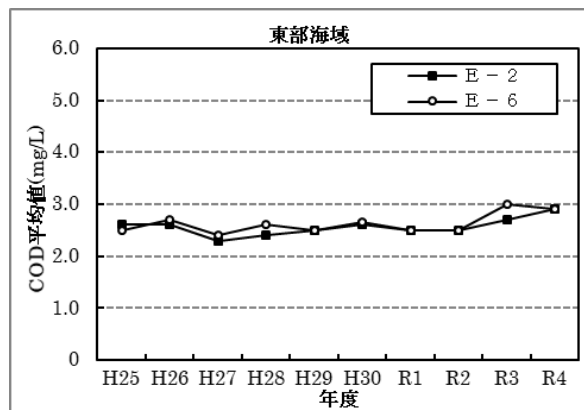
「イ」は、直ちに達成。「ニ」は、段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める。

## ア 東部海域

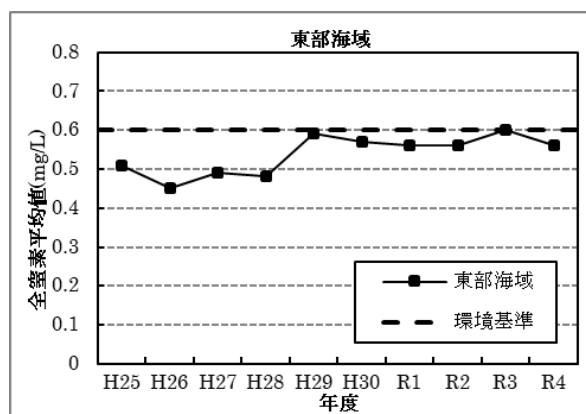
### ●COD75%値の推移



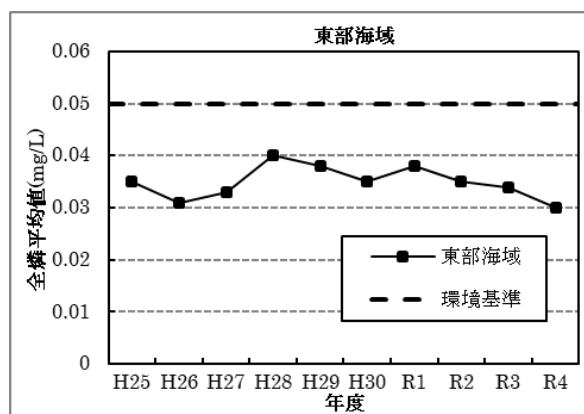
### ●COD年平均値の推移



### ●全窒素濃度の推移 (表層)

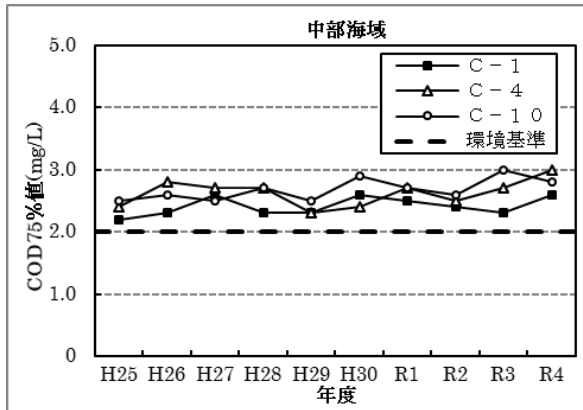


### ●全りん濃度の推移 (表層)

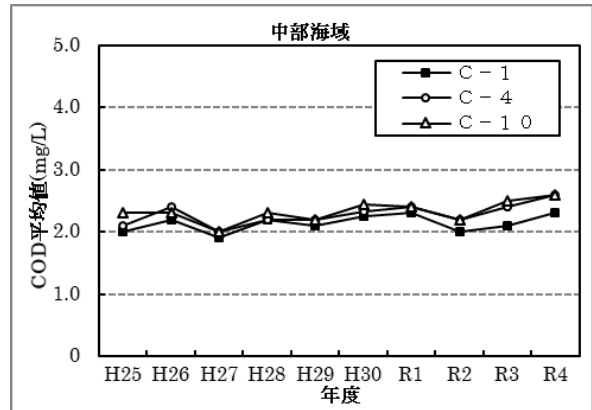


## イ 中部海域

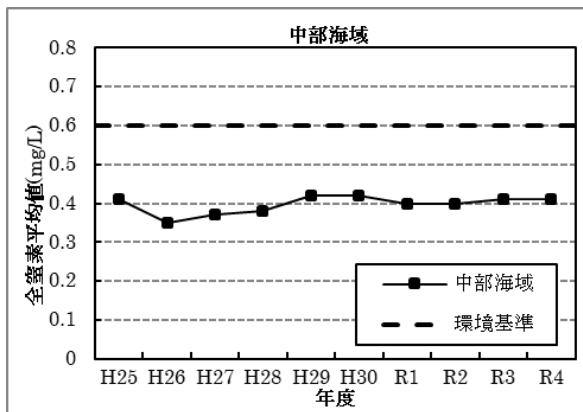
### ●COD75%値の推移



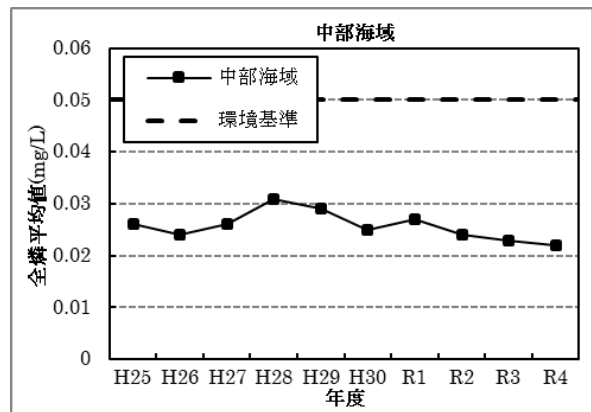
### ●COD年平均値の推移



### ●全窒素濃度の推移 (表層)

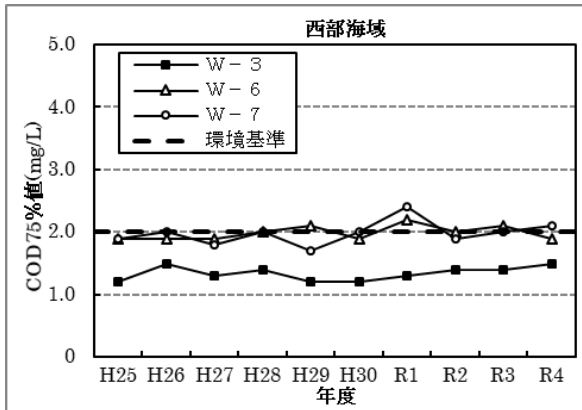


### ●全りん濃度の推移 (表層)

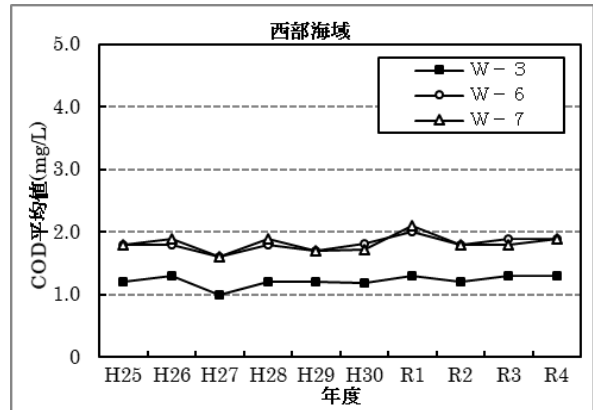


ウ 西部海域

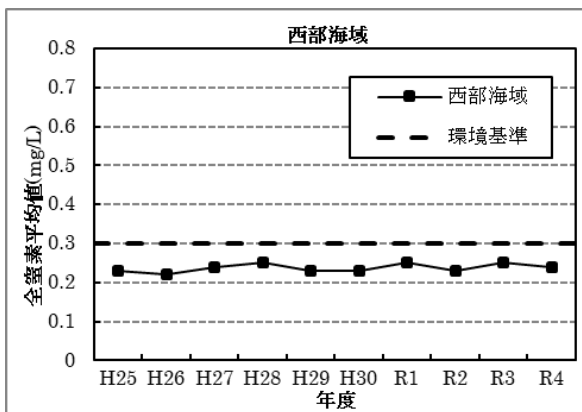
●COD75%値の推移



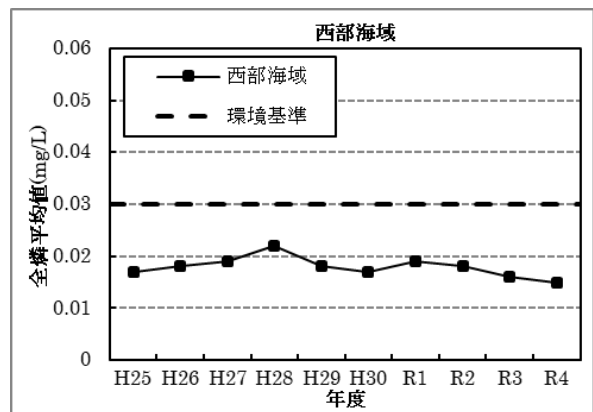
●COD年平均値の推移



●全窒素濃度の推移（表層）



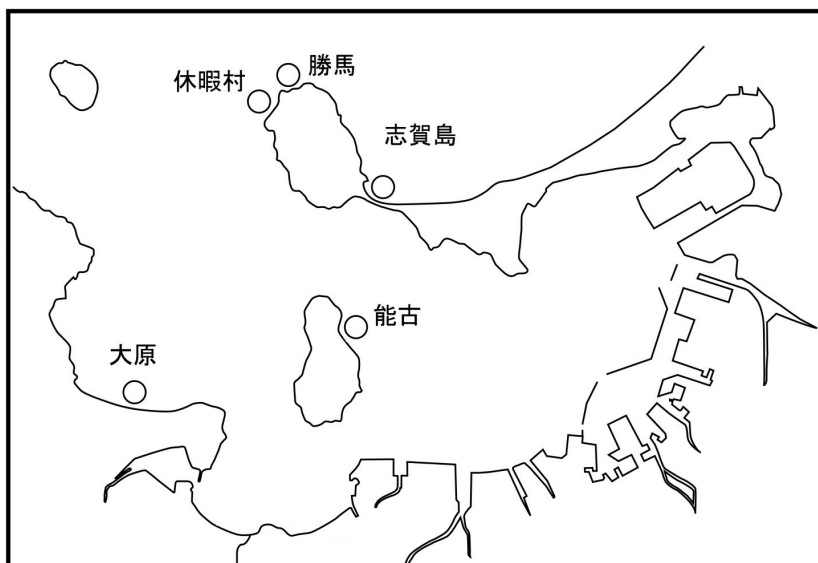
●全りん濃度の推移（表層）





### (3) 海水浴場

#### ●海水浴場調査地点図



#### ●海水浴場の水質判定基準

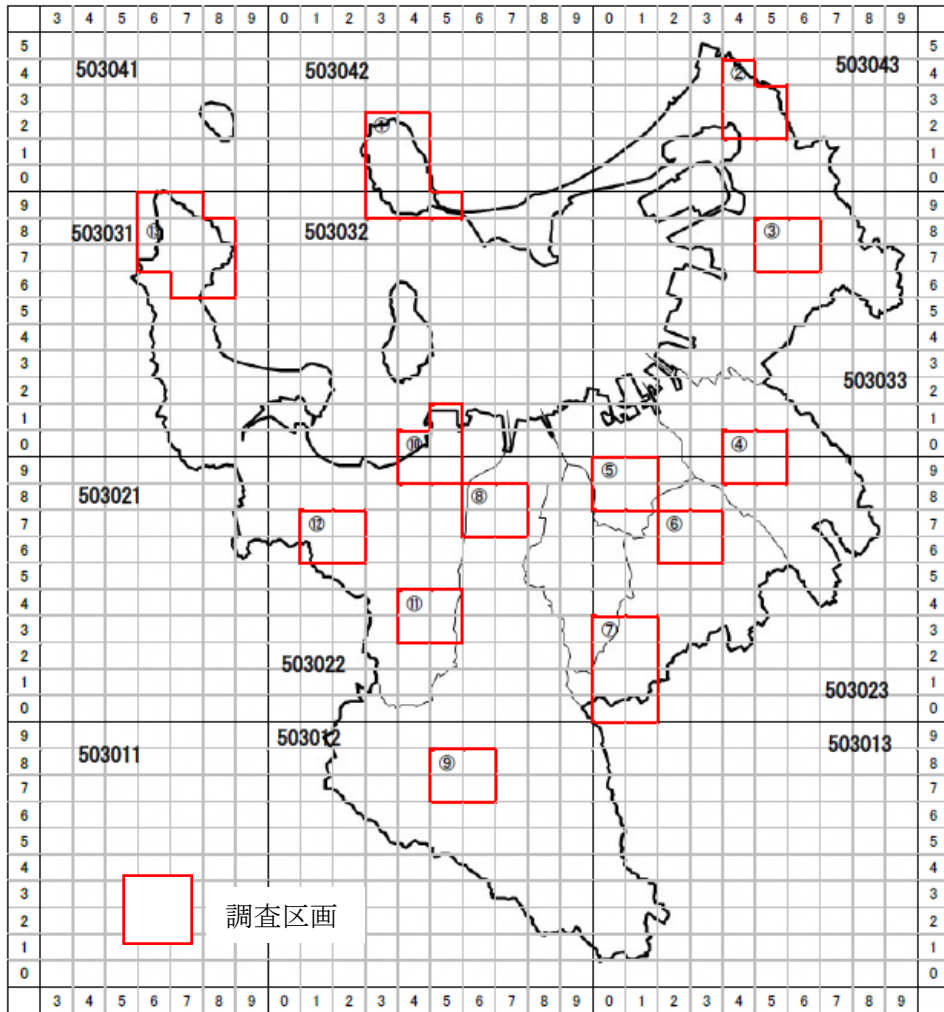
区	分	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	COD	透明度
適	水質A A	不検出 (検出限界 2個/100mL)	油膜が認められない	2 mg/L 以下	全透(1m以上)
	水質A	100 個/100mL 以下	油膜が認められない	2 mg/L 以下	全透(1m以上)
可	水質B	400 個/100mL 以下	常時は油膜が認められない	5 mg/L 以下	1m未満～50cm
	水質C	1,000 個/100mL 以下	常時は油膜が認められない	8 mg/L 以下	1m未満～50cm
不適		1,000 個/100mL を 超えるもの	常時油膜が認められる	8 mg/L 超	50cm未満

#### ●海水浴場水質調査結果 (令和4年度)

海水浴場名	期 間	ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)	油膜の 有無	COD (mg/L)	透明度	判定	(参考) ○157
休 暇 村	遊泳期間前	8	な し	2.6	1m以上	可・水質B	不検出
	遊泳期間中	<2	な し	1.5	1m以上	適・水質A A	不検出
勝 馬	遊泳期間前	5	な し	2.4	1m以上	可・水質B	不検出
	遊泳期間中	<2	な し	2.1	1m以上	可・水質B	不検出
志 賀 島	遊泳期間前	<2	な し	2.4	1m以上	可・水質B	不検出
	遊泳期間中	<2	な し	1.5	1m以上	適・水質A A	不検出
大 原	遊泳期間前	<2	な し	3.1	1m以上	可・水質B	不検出
	遊泳期間中	<2	な し	1.7	1m以上	適・水質A A	不検出
能 古	遊泳期間前	3	な し	3.4	1m以上	可・水質B	不検出
	遊泳期間中	2	な し	2.3	1m以上	可・水質B	不検出

#### (4) 地下水

##### ●概況調査実施地域図（令和4年度）



##### ●地下水質調査結果総括表（令和4年度）

調査区分	調査井戸数	基準超過井戸数	項目別基準超過井戸延数内訳		
			重金属等	揮発性有機化合物	その他
概況調査	13	1	1	0	0
汚染井戸周辺調査	6	0	0	0	0
継続監視調査	23	8	0	8	0
その他の調査	3	0	0	0	0
合計	45	9	1	8	0

※重金属等とは、カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、セレン、ふっ素、ほう素

※揮発性有機化合物とは、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、クロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ベンゼン、1,3-ジクロロプロペン、1,4-ジオキサン

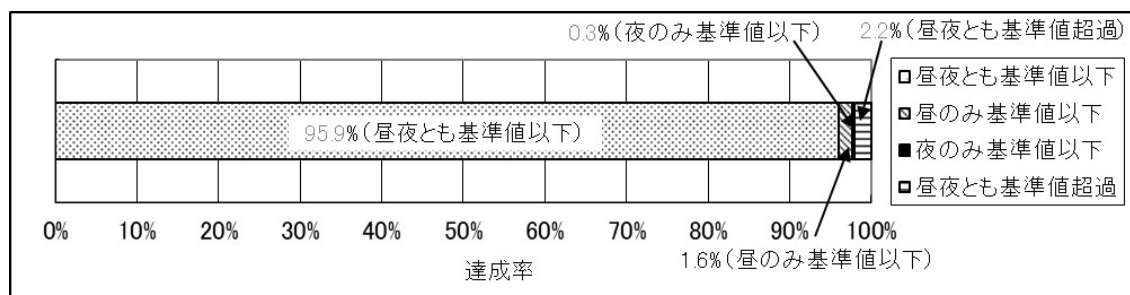
※その他とはPCB、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

### 3 音環境

#### (1) 自動車騒音・道路交通振動

##### ●令和4年度 道路に面する地域における環境基準の達成状況（昼夜別）

環境基準達成状況(総戸数 231,932 戸)				
	昼夜とも基準値以下	昼のみ基準値以下	夜のみ基準値以下	昼夜とも基準値超過
戸数	222,401 戸	3,802 戸	735 戸	4,994 戸
達成率	95.9%	1.6%	0.3%	2.2%



●令和4年度 自動車騒音測定結果（継続測定路線）

（単位：デシベル）

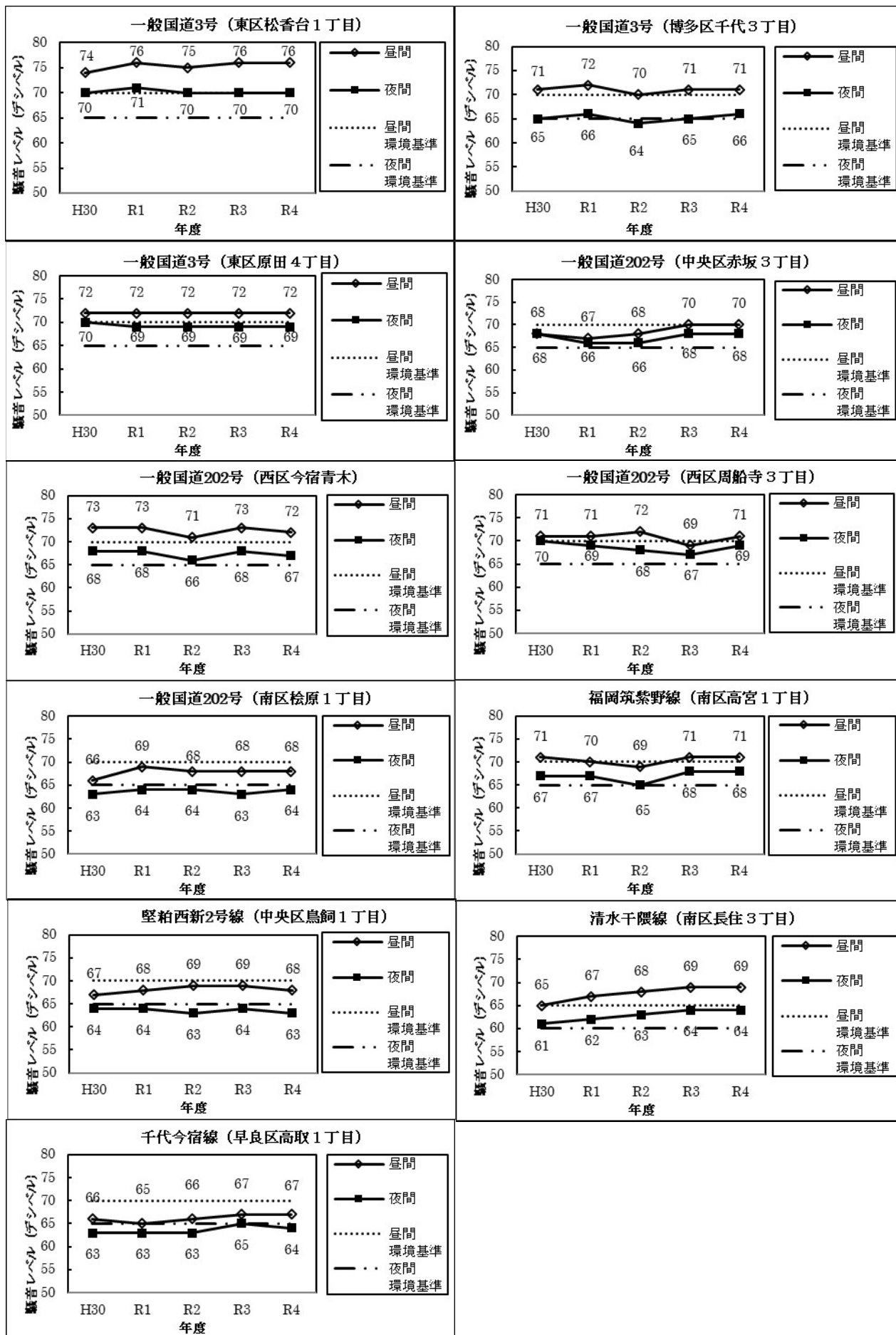
地点番号	路線名	調査単位 区間番号	測定地点住所	測定結果(L <sub>Aeq</sub> )		(参考)環境基準		(参考)要請限度	
				昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
1	一般国道3号	10010-4	東区松香台1丁目24	76	70	70	65	75	70
2	一般国道3号	10090-1	博多区千代3丁目18	71	66	70	65	75	70
3	一般国道3号 (博多バイパス)	10210-1	東区原田4丁目33	72	69	70	65	75	70
4	一般国道202号	10305-1	中央区赤坂3丁目8	70	68	70	65	75	70
5	一般国道202号	10390-4	西区今宿青木	72	67	70	65	75	70
6	一般国道202号	10410-1	西区周船寺3丁目19	71	69	70	65	75	70
7	一般国道202号 (外環状線)	10490-1	南区桧原1丁目30	68	64	70	65	75	70
8	福岡筑紫野線	40090-3	南区高宮1丁目5	71	68	70	65	75	70
9	堅粕西新2号線	80180-1	中央区鳥飼1丁目8	68	63	70	65	75	70
10	清水干隈線	80210-4	南区長住3丁目2	69	64	65	60	75	70
11	千代今宿線	80260-2	早良区高取1丁目1	67	64	70	65	75	70

●令和4年度 道路交通振動測定結果

（単位：デシベル）

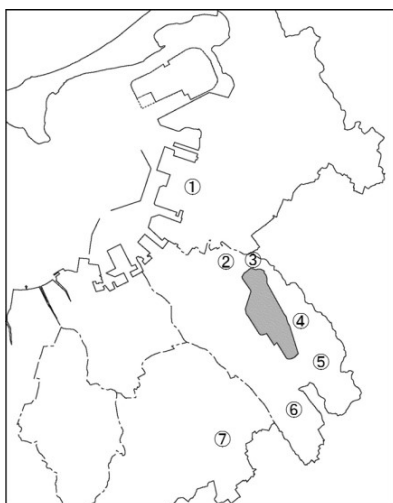
地点番号	路線名	調査単位 区間番号	測定地点住所	測定結果(L <sub>10</sub> )		要請限度	
				昼間	夜間	昼間	夜間
1	一般国道3号	10010-4	東区松香台1丁目24	41	36	65	60
2	一般国道3号	10090-1	博多区千代3丁目18	45	43	70	65
3	一般国道3号 (博多バイパス)	10210-1	東区原田4丁目33	42	40	70	65
4	一般国道202号	10305-1	中央区赤坂3丁目8	40	34	70	65
5	一般国道202号	10390-4	西区今宿青木	43	38	65	60
6	一般国道202号	10410-1	西区周船寺3丁目19	43	39	70	65
7	一般国道202号 (外環状線)	10490-1	南区桧原1丁目30	31	27	65	60
8	福岡筑紫野線	40090-3	南区高宮1丁目5	46	42	70	65
9	堅粕西新2号線	80180-1	中央区鳥飼1丁目8	44	37	65	60
10	清水干隈線	80210-4	南区長住3丁目2	37	31	65	60
11	千代今宿線	80260-2	早良区高取1丁目1	39	36	70	65

●自動車騒音の経年変化（継続測定路線）



## (2) 航空機騒音

### ●航空機騒音測定地点



番号	測定地点	測定場所
①	東箱崎小学校	東区箱崎5丁目11-20
②	東吉塚公民館	博多区吉塚6丁目6-10
③	大井集会所	博多区大井2丁目10-15
④	席田会館	博多区東平尾2丁目20-1
⑤	月隈公民館	博多区月隈3丁目27-3
⑥	板付公民館	博多区麦野1丁目29-12
⑦	野多目小学校	南区野多目2丁目6-1

### ●令和4年度航空機騒音測定結果

(単位：デシベル)

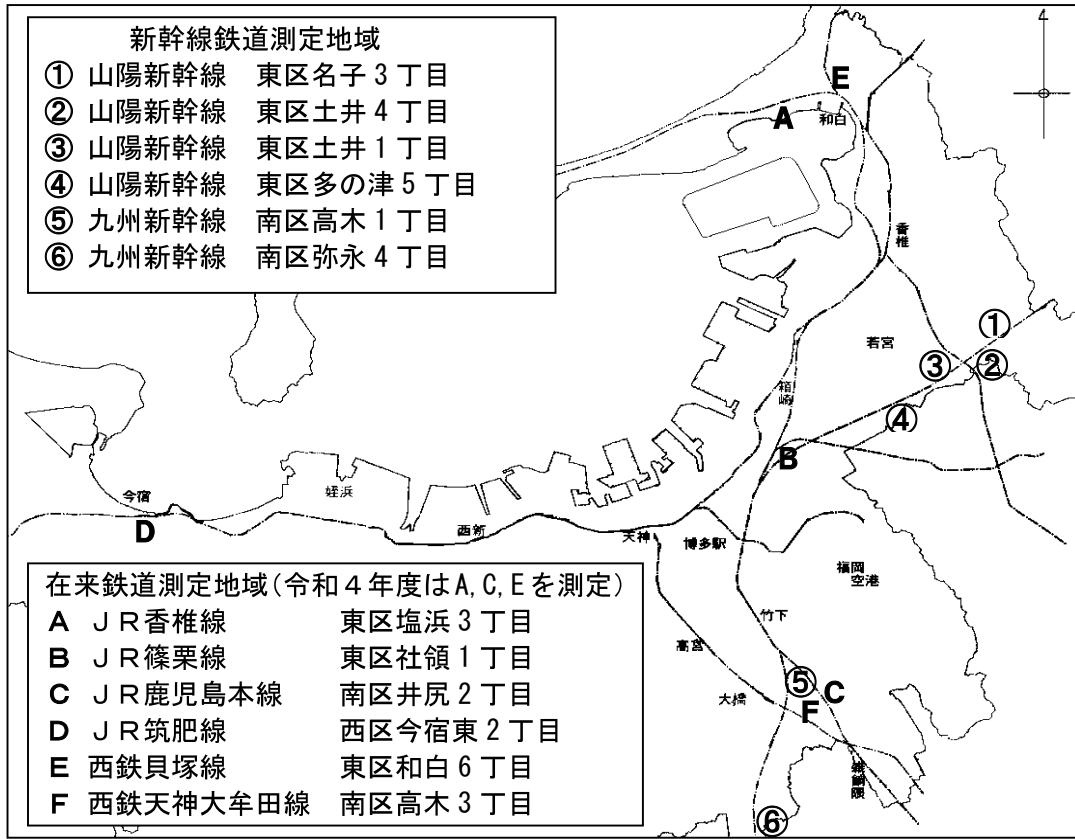
地点番号	測定地点	測定期間	地域類型	測定結果(L <sub>den</sub> )	環境基準
①	東箱崎小学校	R4.5.10～5.16 R4.11.1～11.7	Ⅱ	62	62
②	東吉塚公民館	R4.6.8～6.14 R4.12.13～12.19	Ⅱ	58	62
③	大井集会所	R4.6.2～6.8 R5.2.17～2.23	Ⅱ	60	62
④	席田会館	R4.6.17～6.23 R4.11.26～12.2	Ⅱ	62	62
⑤	月隈公民館	R4.6.17～6.23 R4.11.26～12.2	Ⅱ	<b>64</b>	62
⑥	板付公民館	R4.7.2～7.8 R5.2.2～2.8	I	57	57
⑦	野多目小学校	R4.9.28～10.4 R5.1.15～1.21	I	49	57

※太数字は環境基準を超えるもの

※測定結果は測定期間全日のエネルギー平均値

### (3) 鉄道騒音・振動

#### ●鉄道騒音・振動の測定地点



#### ●令和4年度 新幹線鉄道の騒音・振動測定結果

(単位: デシベル)

地点番号	路線名	測定場所	測定年月日	地域類型	騒音レベル( $\bar{L}_{A, Smax}$ )		振動レベル	軌道構造
					12.5 m	25 m	25 m	
①	山陽新幹線	東区名子3丁目	R4.10.13	I	<b>72</b>	70	45	バラスト高架
②		東区土井4丁目	R4.10.18	I		<b>72</b>	46	バラスト切取り
③		東区土井1丁目	R4.11.9	I	<b>74</b>	<b>73</b>	48	スラブ高架
④		東区多の津5丁目	R4.10.25	II	74	70	52	スラブ高架
⑤	九州新幹線	南区高木1丁目	R4.5.17	II	70	69	40	スラブ高架
⑥		南区弥永4丁目	R4.5.19	I	<b>71</b>	67	46	スラブ高架

※太数字は環境基準を超えるもの

※新幹線鉄道騒音に係る環境基準値は、I 類型: 70デシベル以下、II 類型: 75デシベル以下

※新幹線鉄道振動に係る指針値は、70デシベル以下

●令和4年度 在来鉄道の騒音・振動測定結果

(単位:デシベル)

地点記号	路線名	測定場所	測定年月日	時間帯別等価騒音レベル				振動レベル
				12.5 m		25 m		
				昼間	夜間	昼間	夜間	12.5 m
A	JR香椎線	東区塩浜3丁目	R4.11.2	59	54	55	50	56
C	JR鹿児島本線	南区井尻2丁目	R4.5.26	64	60	59	54	55
E	西鉄貝塚線	東区和白6丁目	R4.10.27	59	54	55	50	44

〔参考〕在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針（平成7年12月20日 環大-第174号）

- 新線  
等価騒音レベル ( $L_{Aeq}$ ) として、昼間（7～22時）は60デシベル以下、夜間（22時～翌日7時）は55デシベル以下とする。なお、住居専用地域等住居環境を保護すべき地域にあつては、一層の低減に努めること。
- 大規模改良線  
騒音レベルの状況を改良前より改善すること。

\*ただし、指針通知前に認可申請されている区間は対象外。



## 4 化学物質等

### (1) ダイオキシン類

#### ●ダイオキシン類測定結果

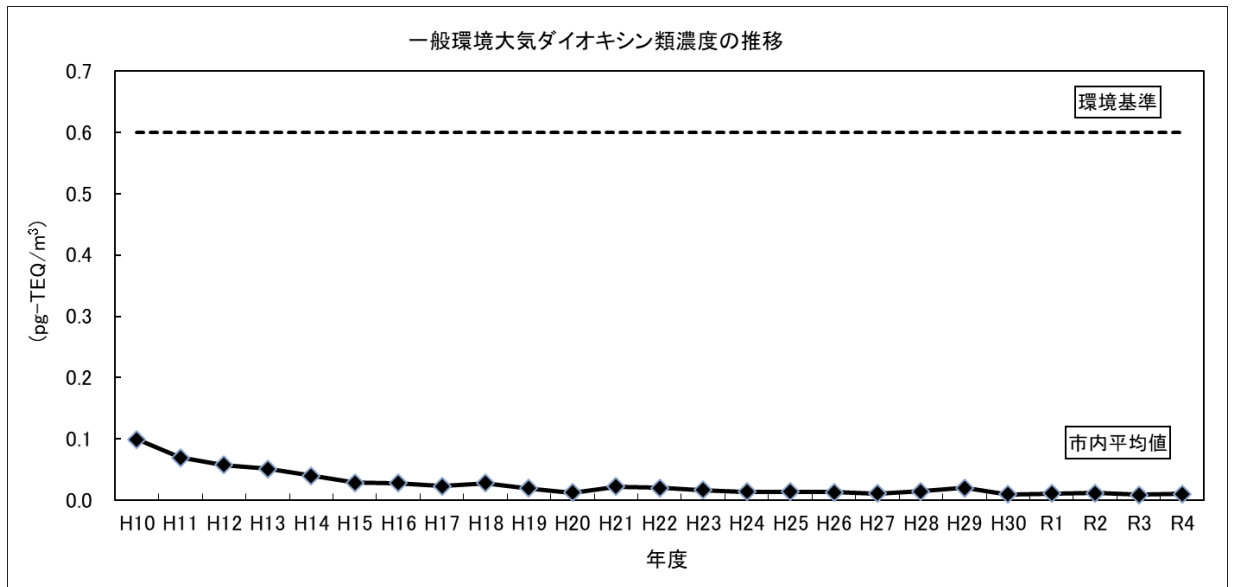
ダイオキシン類の基準値は、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準値。

- 環境大気：環境基準値 0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup> 以下

(単位：pg-TEQ/m<sup>3</sup>)

地点	東区 香住ヶ丘	博多区 吉塚	中央区 春吉	南区 塩原	城南区 長尾	早良区 西新	西区 田尻東
令和4年度	0.0095	0.012	0.0089	0.0091	0.0080	0.012	0.013

- 一般環境大気ダイオキシン類濃度経年変化



- 公共用水域水質：環境基準値 1 pg-TEQ/L 以下

#### ① 河川

(単位：pg-TEQ/L)

地点	浜田橋 唐の原川	名島橋 多々良川	千鳥橋 御笠川	那の津大橋 那珂川	旧今川橋 樋井川	室見橋 室見川
令和4年度	0.23	0.12	0.056	0.059	0.060	0.091
地点	興徳寺橋 名柄川	壱岐橋 十郎川	上鯉川橋 七寺川	玄洋橋 江の口川	昭代橋 瑞梅寺川	
令和4年度	0.087	0.070	0.084	0.17	0.16	

#### ② 博多湾

(単位：pg-TEQ/L)

地点	東部海域 E-2	中部海域 C-4	西部海域 W-3
令和4年度	0.050	0.056	0.045

○ 公共用水域底質：環境基準値 150 pg-TEQ/g 以下

① 河川 (単位：pg-TEQ/g)

地 点	浜田橋 唐の原川	名島橋 多々良川	千鳥橋 御笠川	那の津大橋 那珂川	旧今川橋 樋井川	室見橋 室見川
令和4年度	1.1	0.98	2.2	3.5	1.7	0.85
地 点	興徳寺橋 名柄川	壱岐橋 十郎川	上鯨川橋 七寺川	玄洋橋 江の口川	昭代橋 瑞梅寺川	
令和4年度	0.79	1.4	0.69	2.3	4.0	

② 博多湾 (単位：pg-TEQ/g)

地 点	東部海域 E-2	中部海域 C-4	西部海域 W-3
令和4年度	8.9	8.0	0.66

○ 地下水質：環境基準値 1 pg-TEQ/L 以下

(単位：pg-TEQ/L)

地 点	西区
令和4年度	0.022

○ 土壌：環境基準値 1,000 pg-TEQ/g 以下

(単位：pg-TEQ/g)

地 点	博多区
令和4年度	0.0018

## (2) 有害大気汚染物質

### 令和4年度 有害大気汚染物質調査結果一覧（その1）

物質名	測定地点名	平均値	最小値	最大値	基準値等
ベンゼン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.62	0.24	1.1	環境基準値 3
	千鳥橋局	0.78	0.39	1.3	
	大橋局	0.65	0.35	0.95	
	西新局	0.72	0.35	1.2	
トリクロロエチレン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.037	0.0063	0.11	環境基準値 130
	千鳥橋局	0.020	<0.0012	0.050	
	大橋局	0.014	0.0023 *	0.035	
	西新局	0.013	<0.0012	0.034	
テトラクロロエチレン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.11	0.017	0.30	環境基準値 200
	千鳥橋局	0.060	0.0097	0.19	
	大橋局	0.033	0.017	0.062	
	西新局	0.057	0.017	0.16	
ジクロロメタン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.63	0.067	1.4	環境基準値 150
	千鳥橋局	0.71	0.11	1.5	
	大橋局	0.69	0.17	1.3	
	西新局	0.57	0.091	1.2	
アクリロニトリル ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.016	0.0068	0.027	指針値 2
	千鳥橋局	0.020	0.012	0.042	
	大橋局	0.037	0.014	0.055	
	西新局	0.018	0.011	0.026	
塩化ビニルモノマー ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.031	0.0012 *	0.16	指針値 10
	千鳥橋局	0.035	<0.0011	0.21	
	大橋局	0.036	<0.0011	0.19	
	西新局	0.031	<0.0011	0.18	
クロロホルム ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.12	0.078	0.26	指針値 18
	千鳥橋局	0.13	0.082	0.22	
	大橋局	0.12	0.098	0.18	
	西新局	0.13	0.094	0.20	
1,2-ジクロロエタン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	香椎局	0.12	0.038	0.27	指針値 1.6
	千鳥橋局	0.13	0.033	0.28	
	大橋局	0.11	0.033	0.24	
	西新局	0.13	0.037	0.28	
水銀及びその化合物 ( $\text{ng}/\text{m}^3$ )	香椎局	1.6	1.2	2.1	指針値 40
	千鳥橋局	1.6	1.1	2.1	
	大橋局	1.6	1.1	2.2	
	西新局	1.6	1.1	2.1	
ニッケル化合物 ( $\text{ng}/\text{m}^3$ )	香椎局	1.4	0.98	2.1	指針値 25
	千鳥橋局	1.9	0.92	3.4	
	大橋局	1.8	1.1	2.7	
	西新局	1.4	0.74	2.3	

令和4年度 有害大気汚染物質調査結果一覧（その2）

物質名	測定地点名	平均値	最小値	最大値	基準値等
ヒ素及びその化合物 (ng/m <sup>3</sup> )	香椎局	1.1	0.20	3.7	指針値 6
	千鳥橋局	1.3	0.28	5.0	
	大橋局	1.1	0.34	3.8	
	西新局	1.1	0.26	4.6	
1,3-ブタジエン (μg/m <sup>3</sup> )	香椎局	0.037	0.0083	0.086	指針値 2.5
	千鳥橋局	0.091	0.048	0.17	
	大橋局	0.061	0.023	0.097	
	西新局	0.084	0.033	0.17	
マンガン及びその化合物 (ng/m <sup>3</sup> )	香椎局	6.0	2.7	12	指針値 140
	千鳥橋局	11	5.0	24	
	大橋局	13	4.9	31	
	西新局	5.9	2.1	13	
アセトアルデヒド (μg/m <sup>3</sup> )	香椎局	2.1	0.70	5.7	指針値 120
	千鳥橋局	2.2	1.2	4.6	
	大橋局	1.9	1.0	2.9	
	西新局	2.0	0.78	5.0	
塩化メチル (μg/m <sup>3</sup> )	香椎局	1.4	1.1	1.8	指針値 94
	千鳥橋局	1.4	1.1	1.8	
	大橋局	1.4	1.2	1.6	
	西新局	1.4	1.1	1.7	
クロム及びその化合物 (ng/m <sup>3</sup> )	香椎局	2.2	0.53	6.8	
	千鳥橋局	2.8	1.0	8.5	
	大橋局	2.7	1.2	7.1	
	西新局	1.9	0.52	4.1	
六価クロム化合物 (ng/m <sup>3</sup> )	香椎局	0.084	0.020 *	0.14	
	千鳥橋局	0.11	0.030 *	0.30	
	大橋局	0.087	0.041	0.13	
	西新局	0.083	0.033 *	0.14	
酸化エチレン (μg/m <sup>3</sup> )	香椎局	0.056	0.025	0.10	
	千鳥橋局	0.070	0.029	0.13	
	大橋局	0.060	0.026	0.12	
	西新局	0.070	0.029	0.16	
トルエン (μg/m <sup>3</sup> )	香椎局	2.8	0.88	5.7	
	千鳥橋局	4.8	1.9	12	
	大橋局	3.6	1.8	6.2	
	西新局	3.5	1.7	6.8	
ベリリウム及びその化合物 (ng/m <sup>3</sup> )	香椎局	0.0061	0.0020	0.014	
	千鳥橋局	0.011	0.0037	0.030	
	大橋局	0.011	0.0030	0.041	
	西新局	0.0061	0.0014 *	0.015	

### 令和4年度 有害大気汚染物質調査結果一覧（その3）

物質名	測定地点名	平均値	最小値	最大値	基準値等
ベンゾ [a] ピレン (ng/m <sup>3</sup> )	香椎局	0.22	0.0055	0.66	
	千鳥橋局	0.16	0.011	0.52	
	大橋局	0.13	0.0083	0.24	
	西新局	0.13	0.0044	0.29	
ホルムアルデヒド (μg/m <sup>3</sup> )	香椎局	2.7	0.78	6.6	
	千鳥橋局	2.7	1.4	4.3	
	大橋局	2.6	1.1	5.1	
	西新局	2.5	1.0	4.7	

- 注) ・ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンの基準値は、環境基本法第16条に基づく大気環境基準値。  
 ・アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物、ニッケル化合物、ヒ素及びその化合物、1,3-ブタジエン、マンガン及びその化合物、アセトアルデヒド、塩化メチルの指針値は、環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値（中央環境審議会「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第7次答申）（第8次答申）（第9次答申）（第10次答申）（第12次答申）」）。  
 ・測定値は、原則として有効数字2桁とし、最小表示は定量下限値の桁まで記入。但し、測定値が検出下限値以上定量下限値未満の値は「※」を付し定量下限値の桁まで記載。測定値が検出下限値未満の値は、<検出下限値を記載。  
 ・年平均値の算出については測定値を算術平均して求めた。但し、測定値が検出下限値未満のときは、検出下限値の2分の1の値を年平均の算出に用いた。

### (3) アスベスト

#### ●令和4年度 一般環境大気中アスベスト調査結果

単位：本/リットル

地域分類	地域	総繊維数濃度 (アスベスト以外の繊維を含む)	
		測定地点1	測定地点2
住宅地域	早良区祖原	0.12	0.070
	南区塩原	0.10	0.070
商業地域	中央区天神	0.056	0.056
準工業地域	博多区吉塚	0.14	0.070
幹線道路沿線地域	博多区千代	0.17	0.17

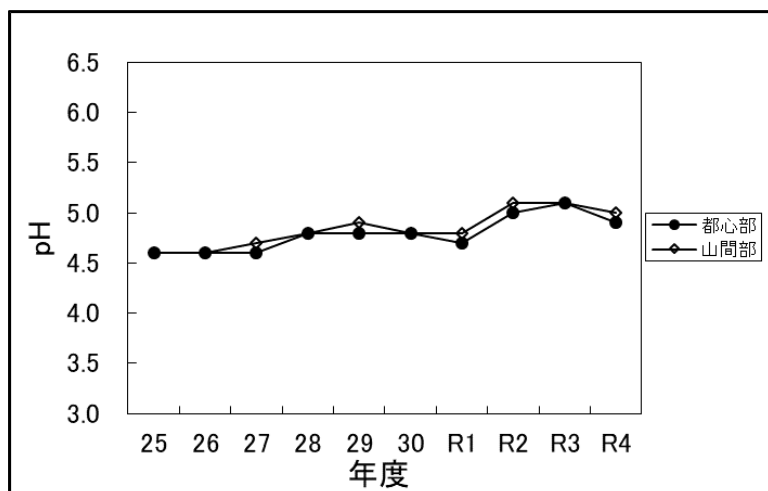
※測定結果：各地域において2地点で測定を実施。3日間（4時間×3回）の総繊維数濃度の幾何平均値。

#### ※世界保健機関（WHO）の環境保健クライテリア53（1986）

『石綿及びその他の天然鉱物繊維』が人の健康に及ぼす影響を総合的に評価しとりまとめたもので、「世界の都市部の一般環境中の石綿濃度は1本～10本/リットル程度であり、この程度であれば、健康リスクは検出できないほど低い」とされています。

## (4) 酸性雨

### ●酸性雨の年間平均値の推移

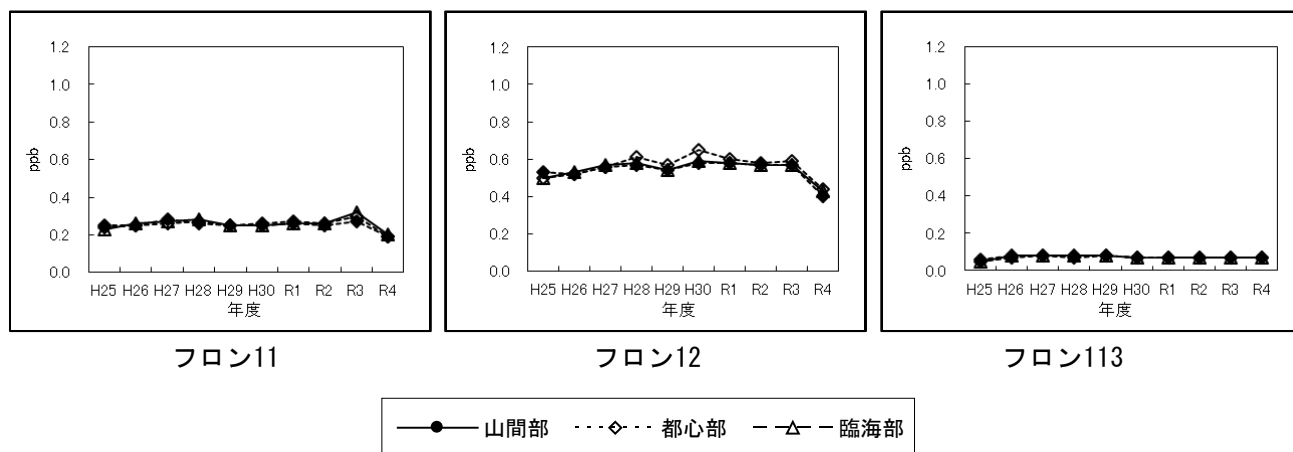


- ・都心部…城南区鳥飼
- ・山間部…早良区大字曲渚

※酸性雨：工場や自動車等から排出された硫黄酸化物、窒素酸化物等が大気中で水分と反応して硫酸や硝酸となりこれが溶けて酸性になった雨で、一般的にはpH5.6以下とされている。

## (5) フロン

### ●フロン濃度の推移



- ・山間部…早良区大字曲渚
- ・都心部…中央区天神
- ・臨海部…中央区地行浜

※フロン：フッ素と炭素からなる化学物質の総称。冷蔵庫、エアコンの冷媒などとして使用され、このうちフロン11、フロン12、フロン113等の塩素を含むものは、大気に放出されると上空のオゾン層を破壊する。地球温暖化の原因物質でもある。